

農村集落实態調査の結果報告

令和5年

新潟市農林水産部

報告内容（目次）

はじめに

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方法

1.新潟市の概況

- (1) 農業の担い手
- (2) 農業産出額
- (3) 経営耕地面積

2.調査概要

- (1) 対象集落の抽出
- (2) 代表者ヒアリング調査項目
- (3) アンケート調査項目

3.アンケート調査結果

4.調査結果の要約

- (1) 代表者ヒアリング
- (2) アンケート調査

5.総括

- (1) 農村集落について
- (2) 農業について

6.まとめ

はじめに

1 調査の目的

市内の農村集落の現状および抱える課題を把握し、今後の農村集落機能の維持・活性化に向けた対策の基礎資料とする

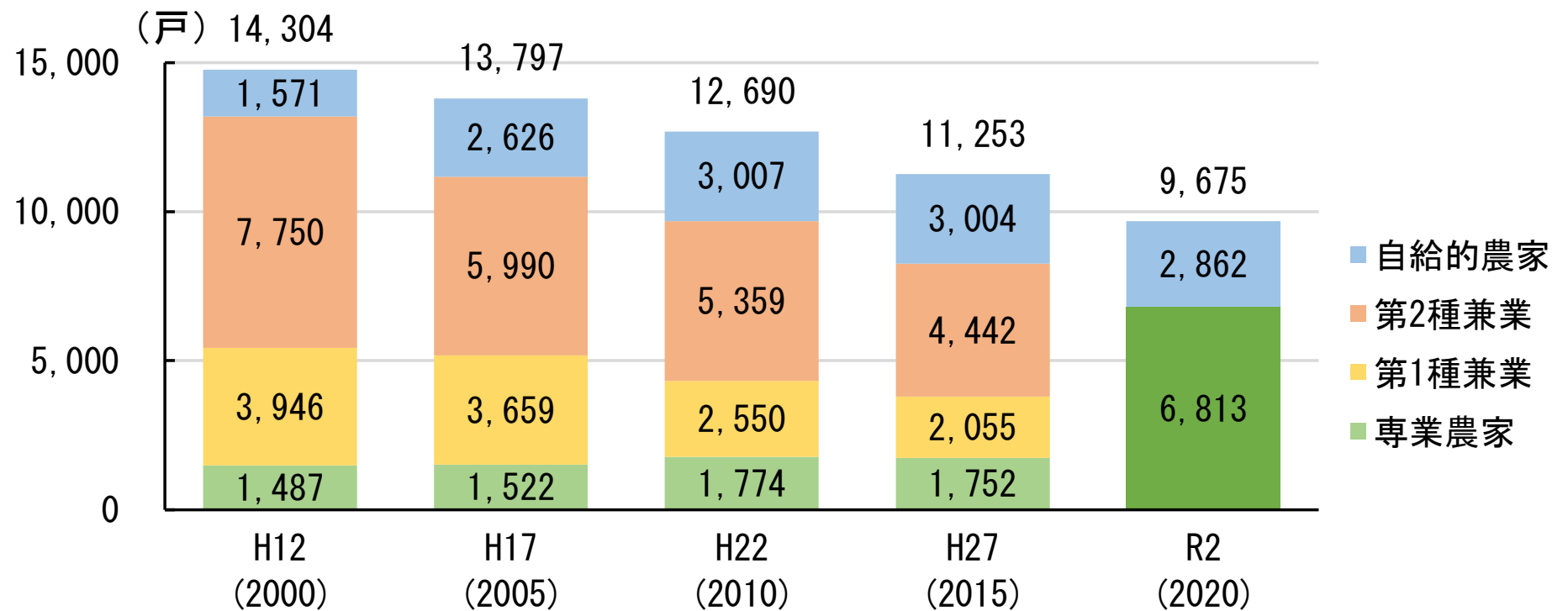
2 調査の方法

- **代表者ヒアリング**（令和4年8月～9月）
農家組合長や自治会長など集落の代表者に対し聞き取り調査
- **アンケート調査**（令和4年8月）
対象集落に住居登録している15歳以上の市民を対象に調査
配布：1,178部、回収：489部（回収率：41.5%）

新潟市の概況

○ 農業の担い手 【農家戸数】

農家戸数は年々減少しており、平成12年から令和2年にかけての20年間で約32%減少



出典：「農林業センサス」農林水産省

※農林業センサス2020から販売農家の内訳として専業・兼業の集計廃止

※「農家」：経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯、又は経営耕地面積が10a未満であっても、調査期日前1年間における農産物販売金額が15万円以上あった世帯をいう。

「販売農家」：経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。

新潟市の概況

○ 農業の担い手 【農業経営体数】

- ・ 農業経営体そのものが減少し、令和2年は7,032経営体
- ・ 個人経営体が減少している一方で、法人経営体は増加

	H27(2015)			
	個人経営体 ※非法人の 家族経営体	組織経営体	法人経営体	計
新潟市	8,294	167	141	8,461
新潟県	54,526	1,588	1,184	56,114

	R2(2020)			
	個人経営体	団体経営体	法人経営体	計
新潟市	6,852	180	165	7,032
新潟県	41,955	1,547	1,218	43,502

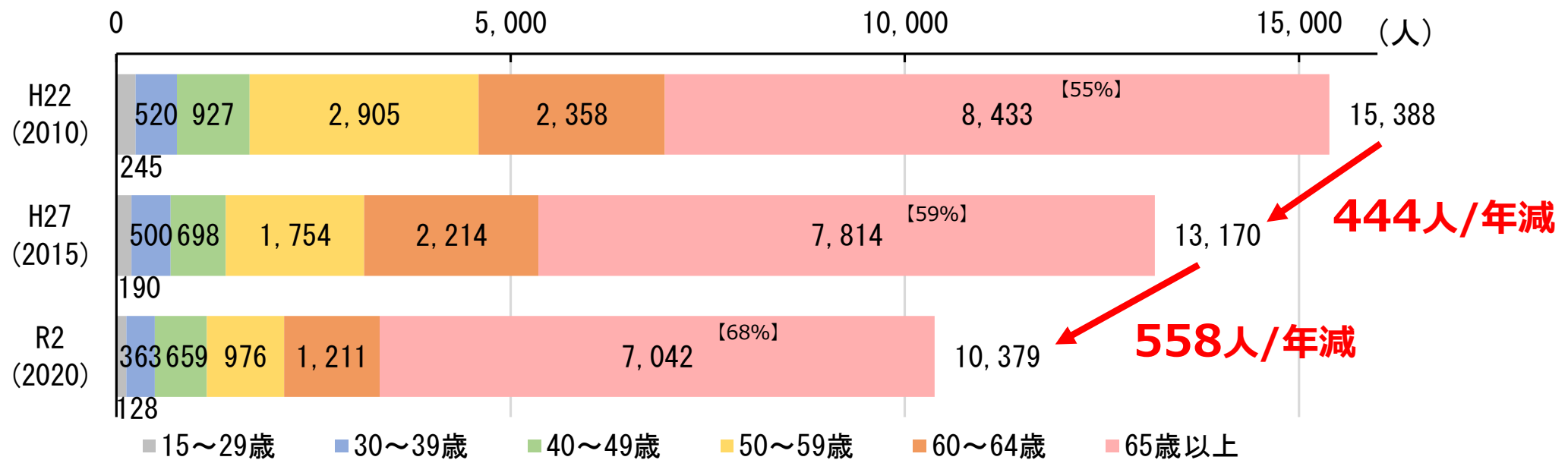
出典：「農林業センサス」農林水産省

※「農業経営体」：農林産物の生産を行うか又は委託を受けて農林業作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、基準のいずれかに該当する事業を行う者をいう。（経営耕地面積が30a以上、露地野菜作付面積が15a以上、調査期日前1年間における農業生産物の総販売額50万円に相当 など）

新潟市の概況

○農業の担い手 【基幹的農業従事者数】

- ・ 個人経営体の世帯員である基幹的農業従事者は年々減少しており、令和2年は約1万人余りに
- ・ 高齢化が急速に進行し、令和2年は65歳以上が68%に

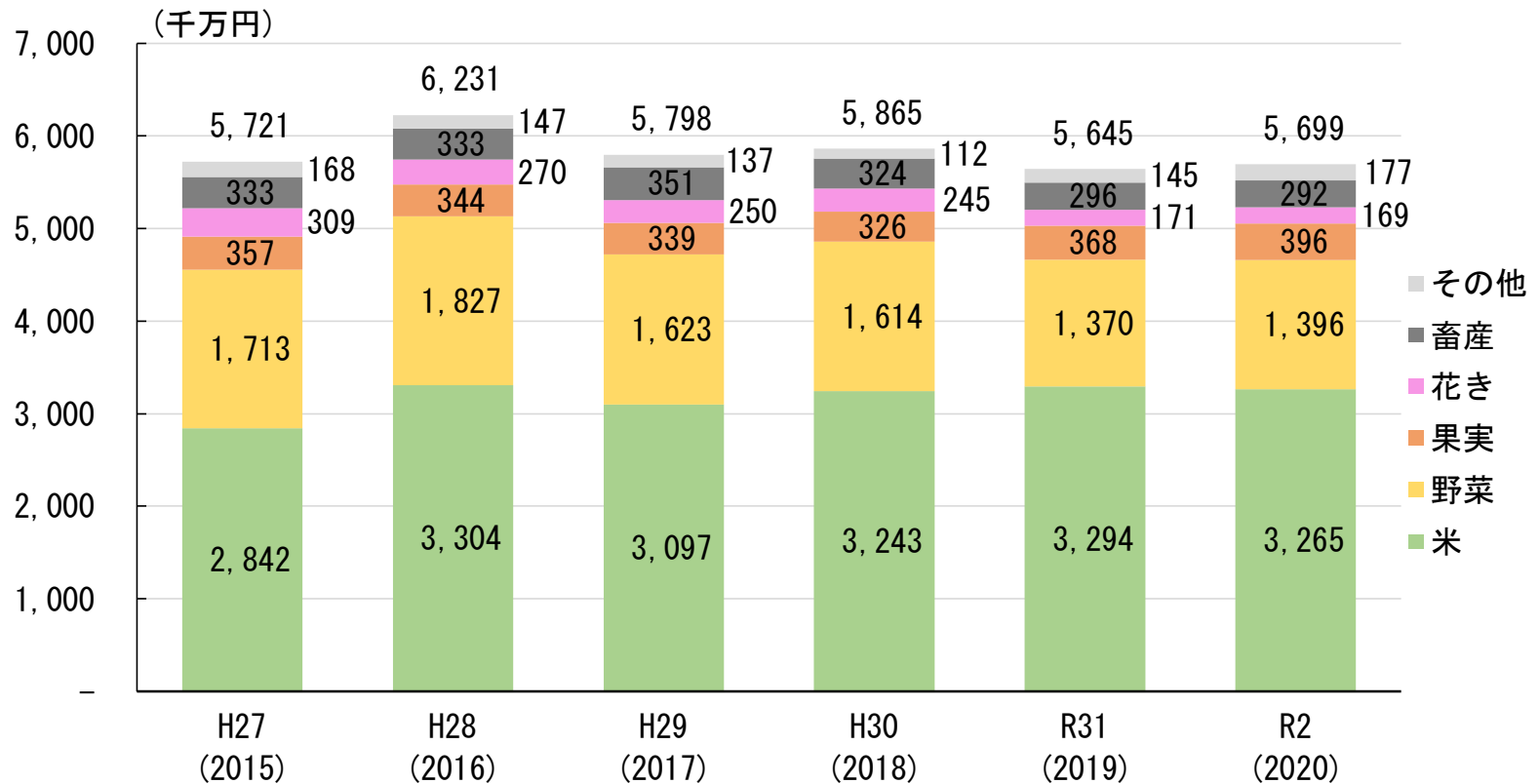


出典：「農林業センサス」農林水産省

新潟市の概況

○農業産出額

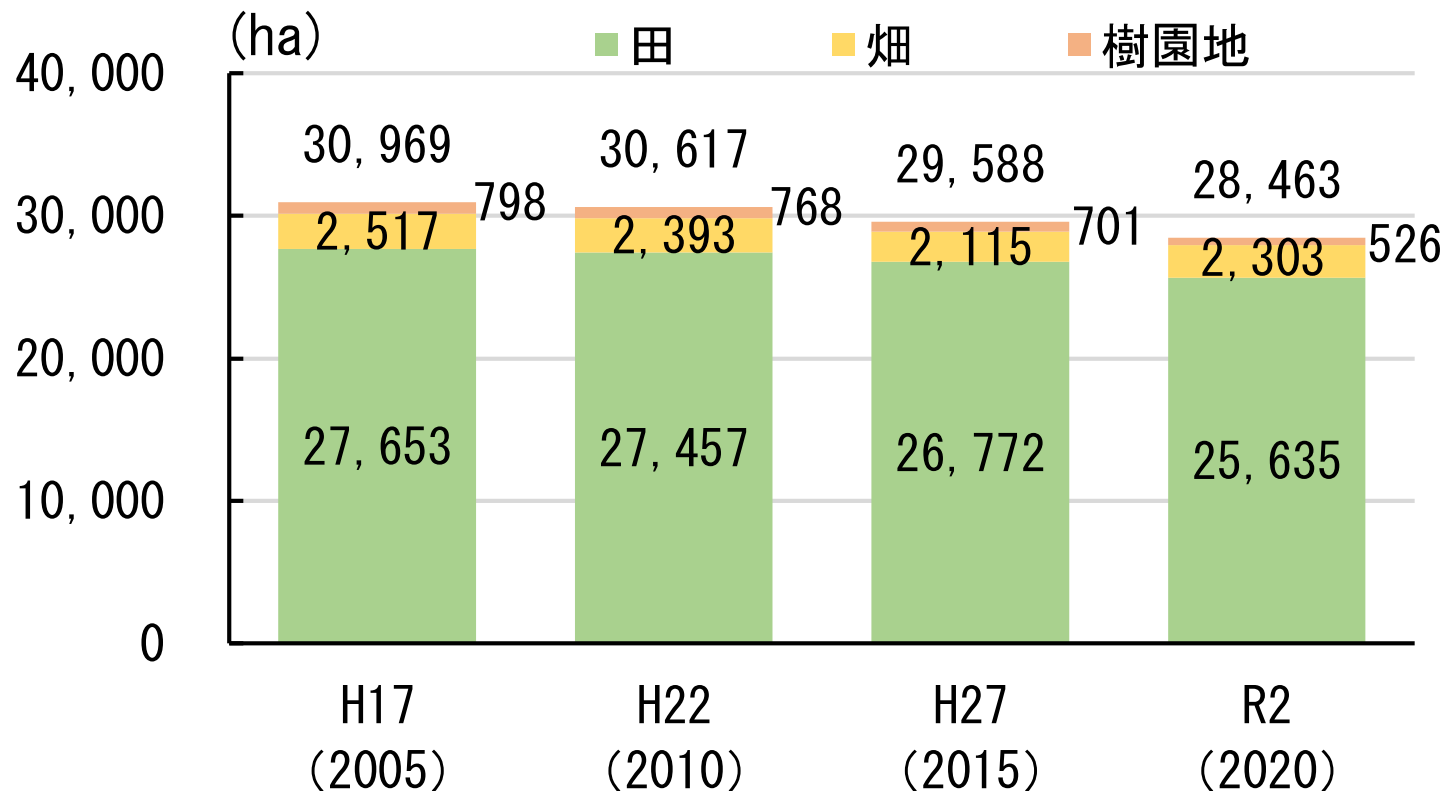
- ・令和2年の農業産出額は約570億円で全国5位
- ・米の産出額は全体の約6割



新潟市の概況

○経営耕地面積

- 経営耕地面積のうち約9割が田
- 経営耕地面積は減少傾向にあり15年間で約10%減、特に樹園地の減少幅（34.1%）が大きい。



出典：「農林業センサス」農林水産省
※農業経営体が対象

調査概要

1 対象集落の抽出

- 農林水産省の「農村地域の姿」のデータ（2015年農林業センサス）を使用し、下記条件で絞り込み

- ① 4つの農業地域類型（全572件）のうち、都市的地域及び平地農業地域を対象（計563件）
- ② 販売農家率10%未満及び算定不能を除く（383件）
- ③ 総戸数平均（65.3件）の+-10戸の範囲
- ④ 販売農家率の平均（24.7%）との差および、農林業センサスの総戸数と住民基本台帳の世帯数の差を、区ごとに順位付け
- ⑤ 上記④の順位の計が少ない集落を選定。ただし農林業センサスの総戸数と住民基本台帳の世帯数の差が20件未満

- 上記により絞り込み後の集落から農業地域類型の割合（都市的地域:平地農業地域=3:7）を考慮のうえ、区役所農政担当課の意見を踏まえ6集落を決定

※各区から各1集落を選定 / 東区・中央区は、上記②③により全集落が対象外

調査概要

2 代表者ヒアリング調査項目

- (1) 集落の概況について (世帯数の動向など)
- (2) 生活環境について (施設立地、耕作放棄地など)
- (3) 支え合いについて (高齢者世帯の状況など)
- (4) 集落行事について (祭礼や江浚いの実施状況など)
- (5) 集落の課題等について
- (6) 地域農業の就業状況と農業経営について
- (7) 農業の経営課題について

調査概要

3 アンケート調査項目

(1) あなたご自身について

(年代、性別、職業等、住所の履歴、世帯員数など)

(2) 集落の概況について

(農家戸数の変化の影響など)

(3) あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りにについて

(4) 生活上の問題点と思うことについて

(5) あなたの農業の就業状況と農業経営について

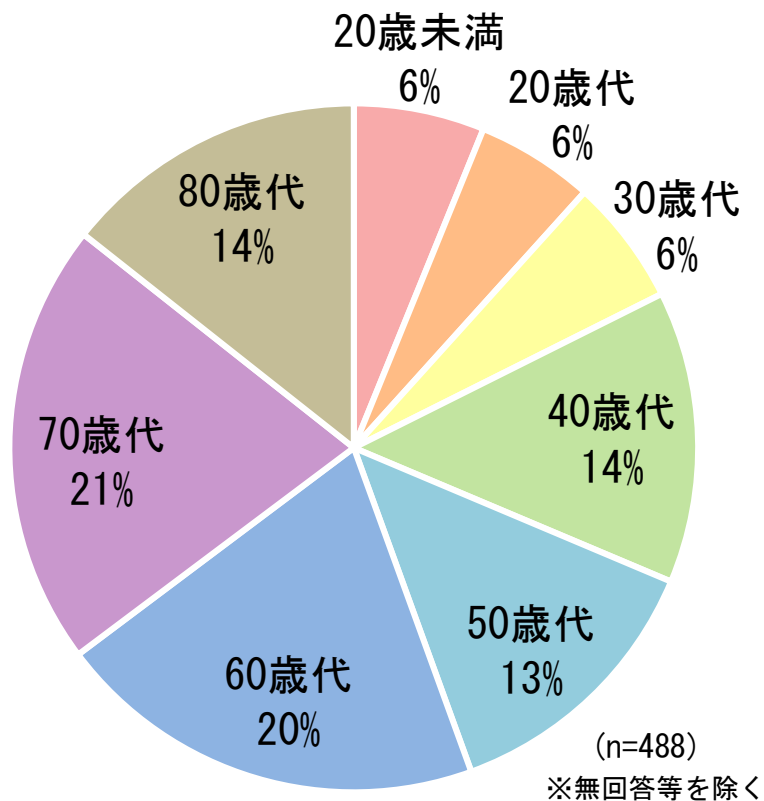
※農業を営んでおられる方のみ

白紙

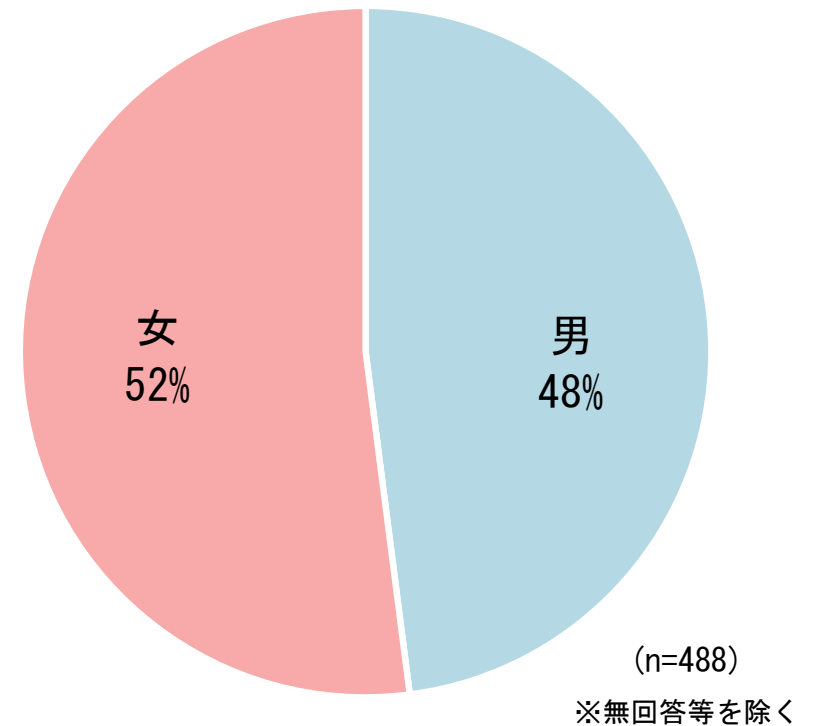
アンケート調査結果

1 あなたご自身について

問1. あなたの年代を教えてください



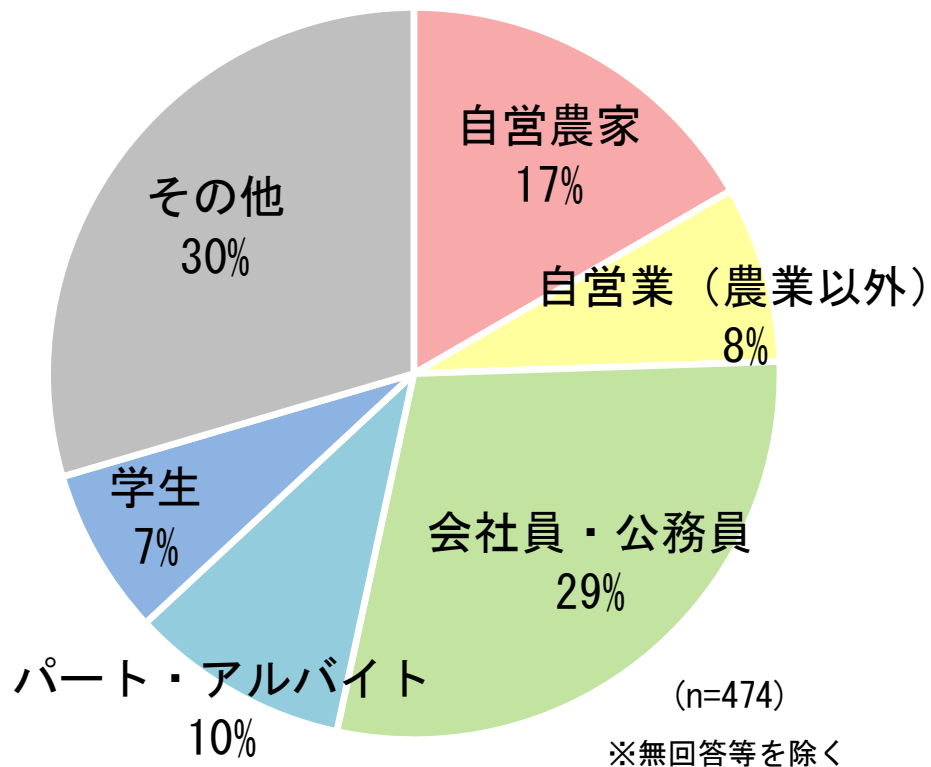
問2. あなたの性別を教えてください



アンケート調査結果

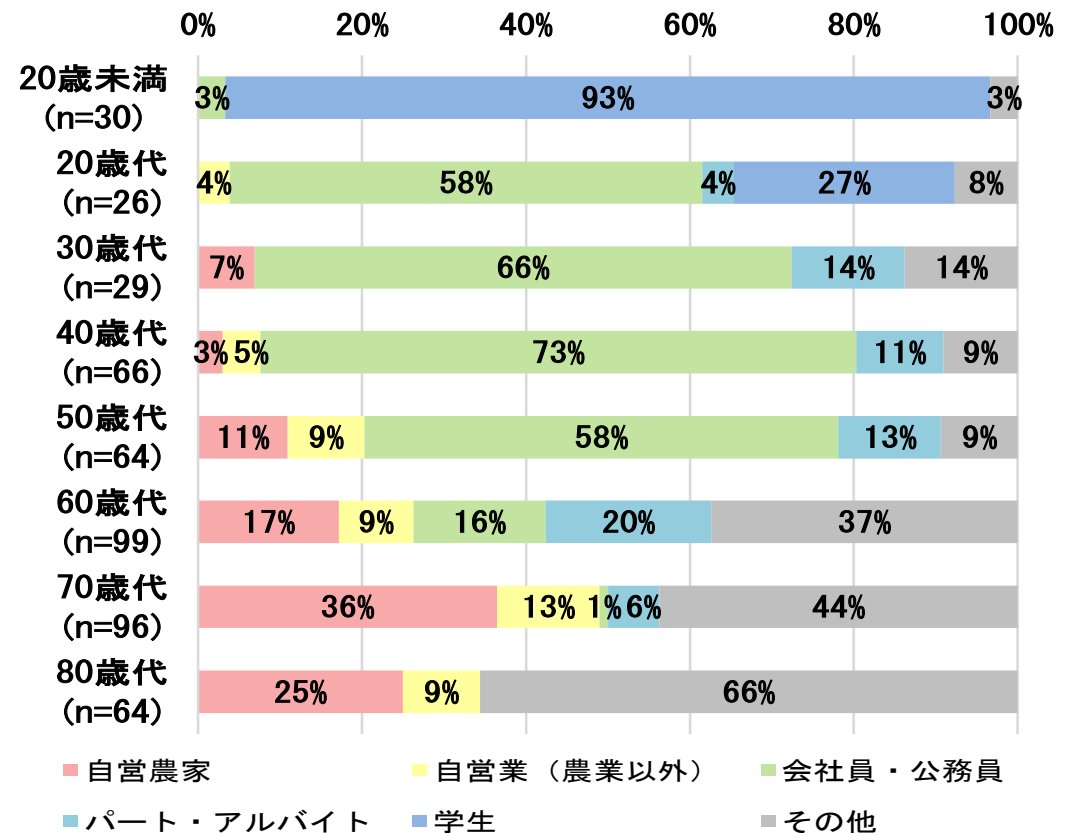
1 あなたご自身について

問3. あなたの普段の状況を教えてください



● 年代が高いほど「自営農家」の割合が高い

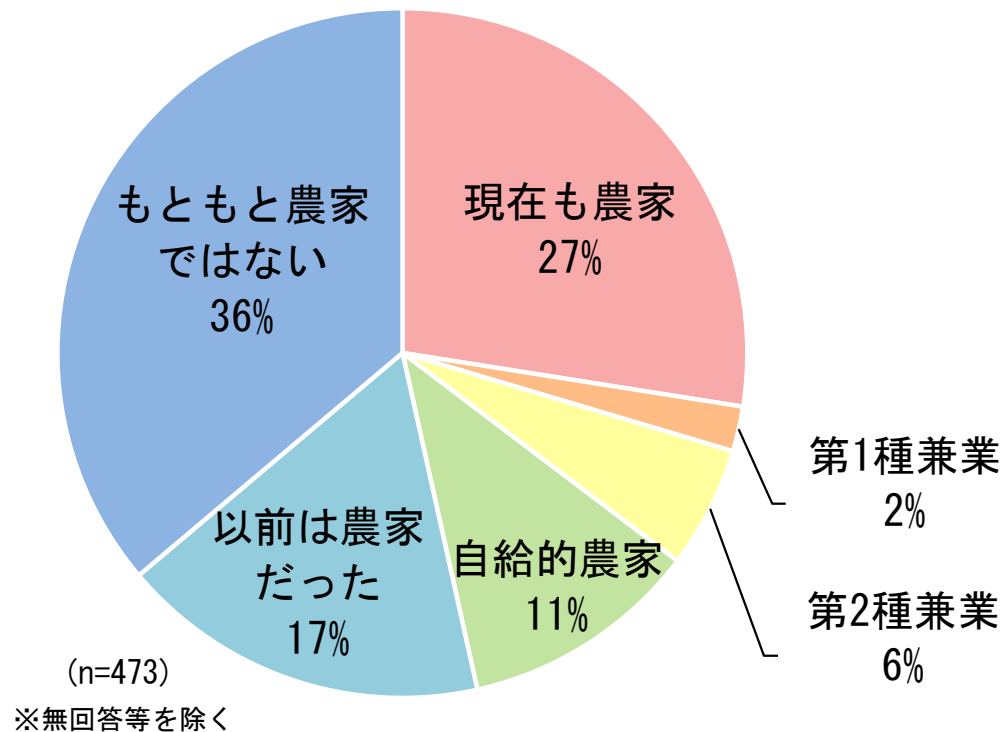
問3. クロス集計：年代



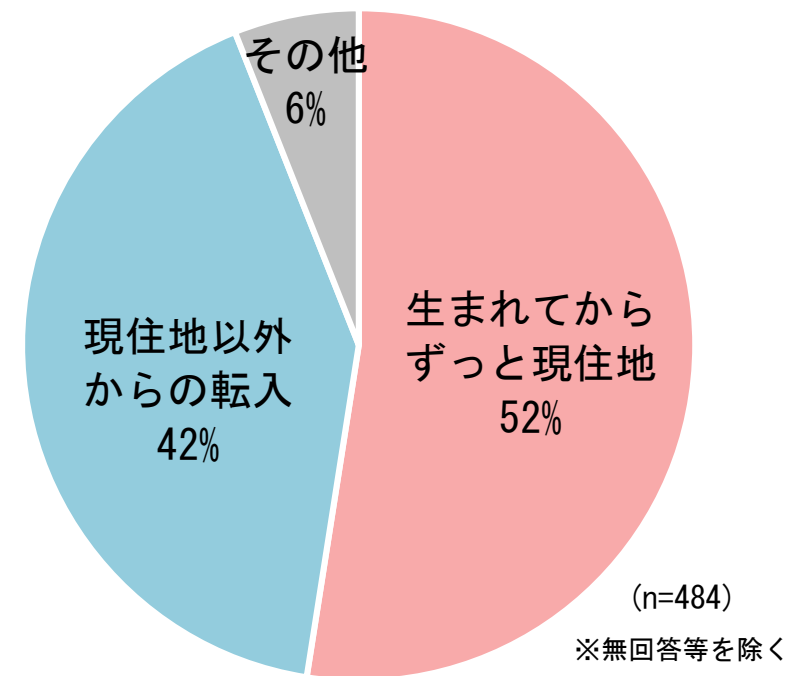
アンケート調査結果

1 あなたご自身について

問4. あなたの家は農家ですか



問5. あなたの住所の履歴を教えてください

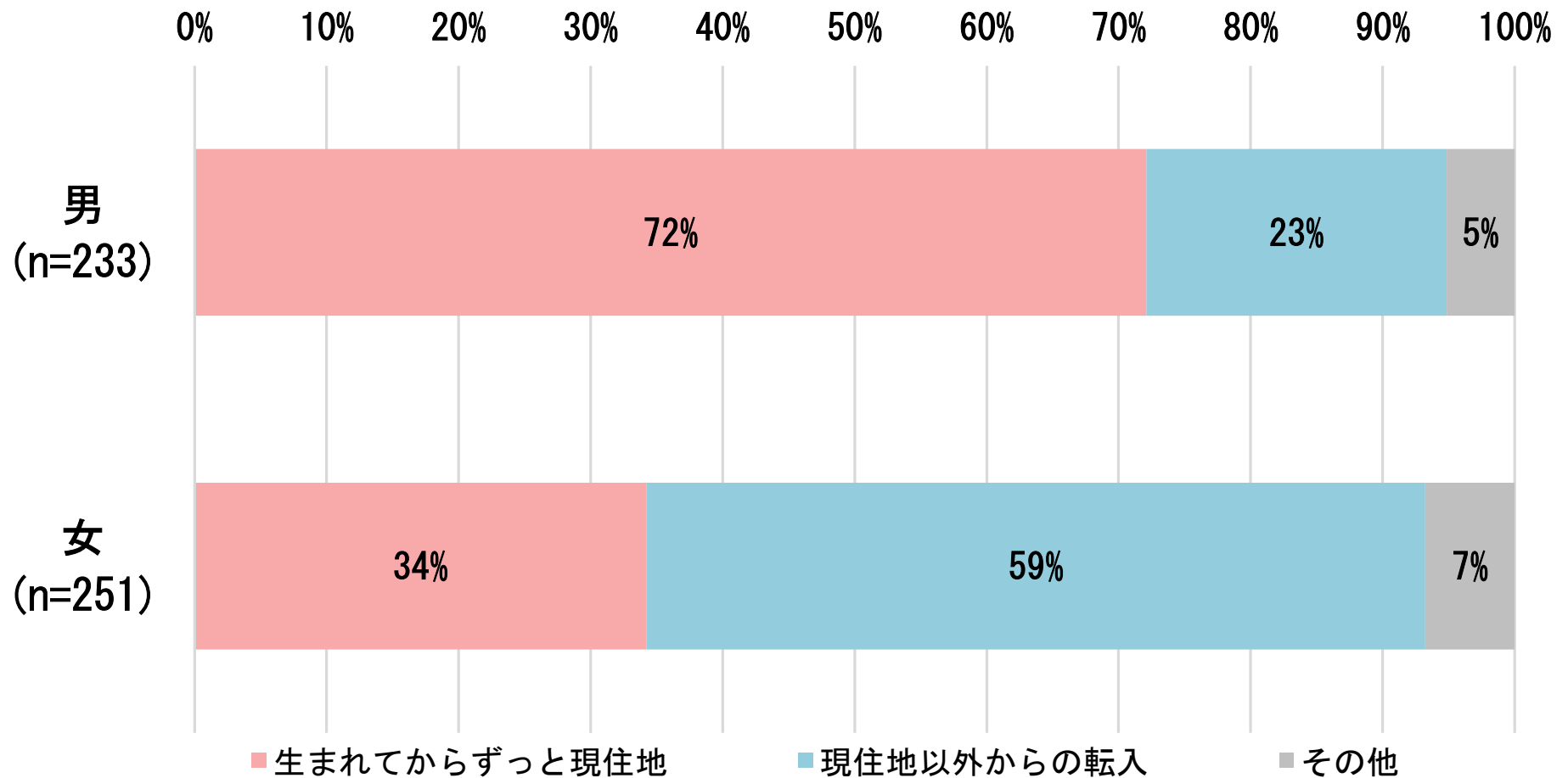


アンケート調査結果

1 あなたご自身について

- 女性は男性よりも結婚を機に転入・転出する人が多いと考えられる

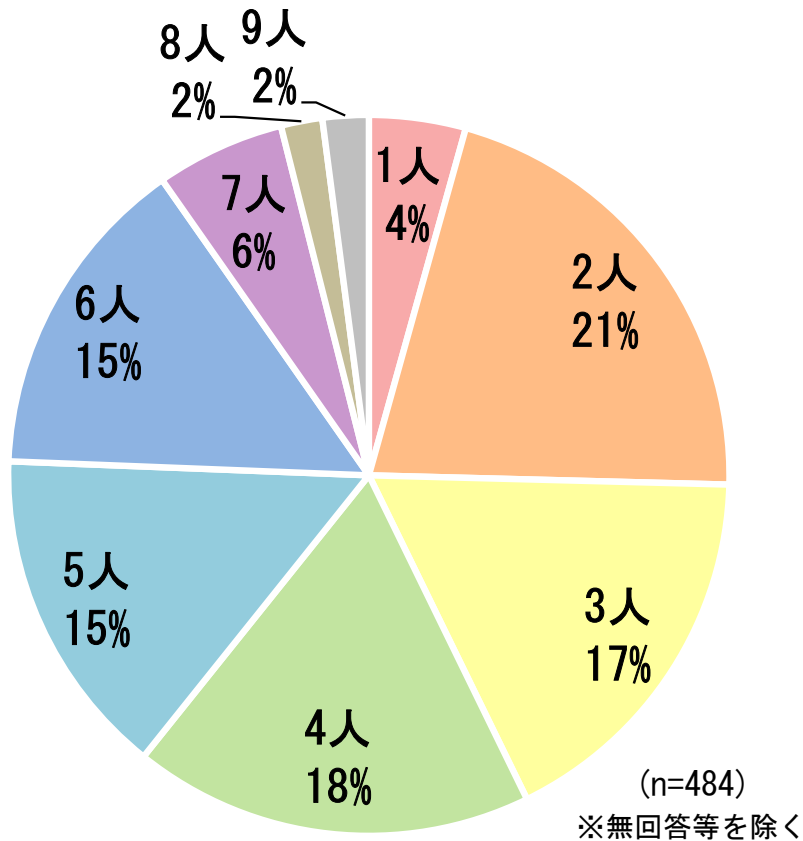
問5. 住所の履歴 クロス集計：性別



アンケート調査結果

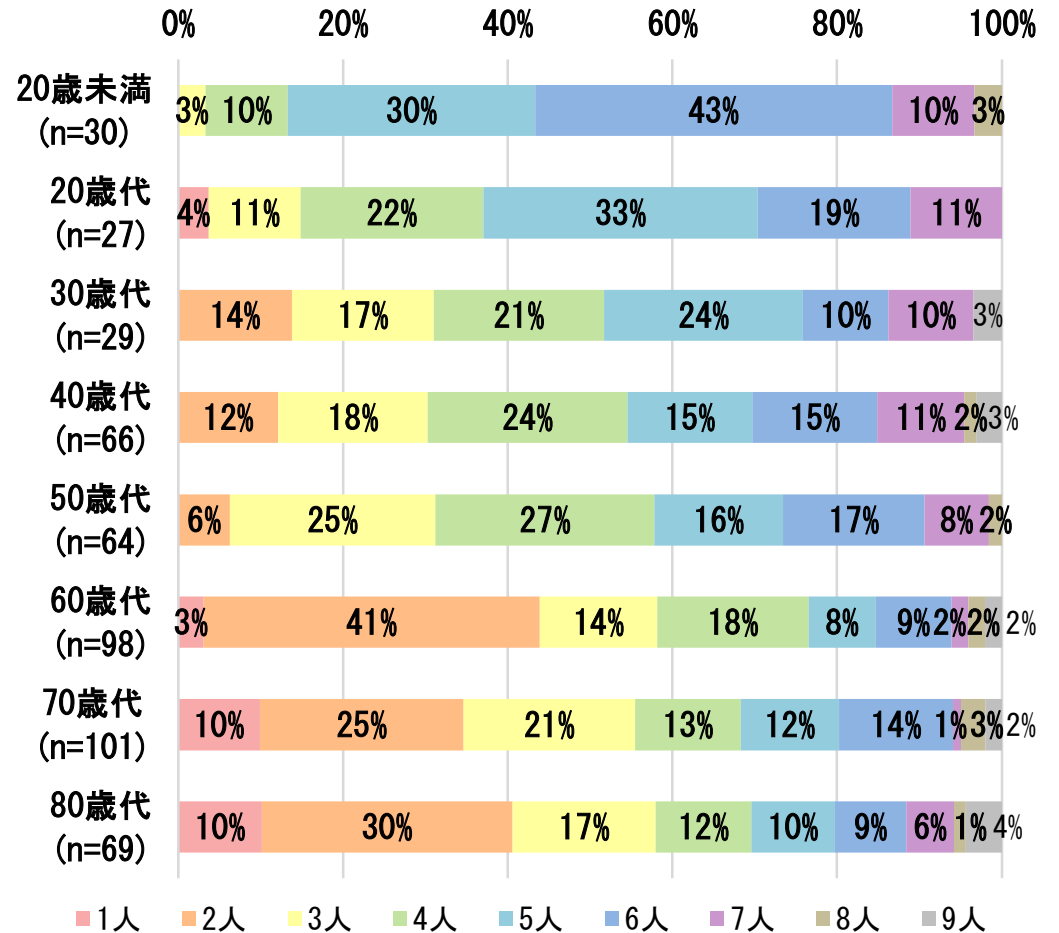
1 あなたご自身について

問6. あなたの世帯の世帯員数を教えてください



● 60歳代から2人世帯が増加する

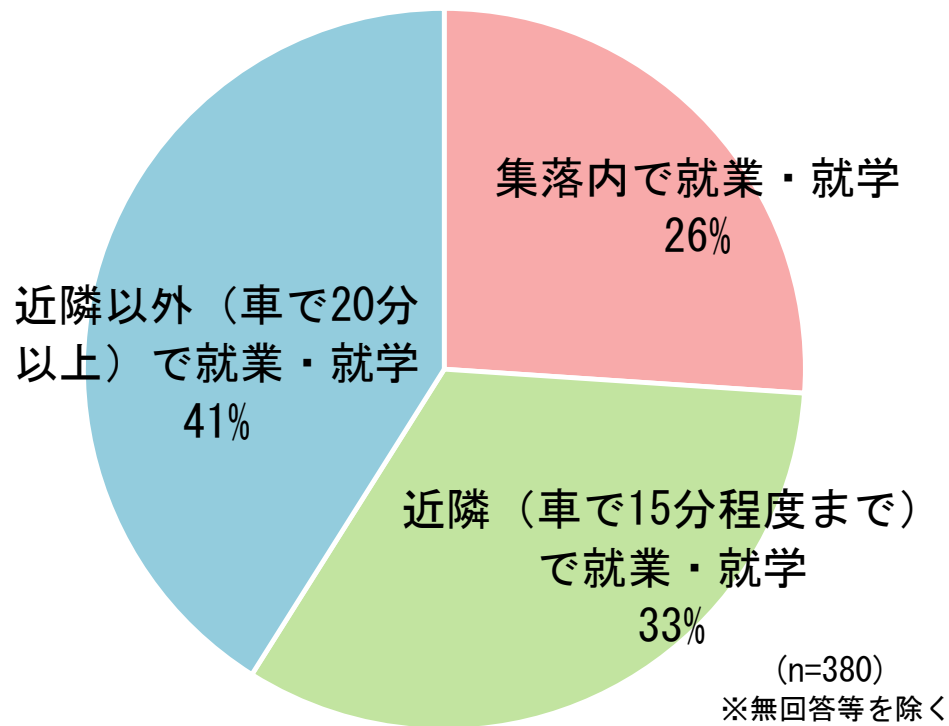
問6. クロス集計：年代



アンケート調査結果

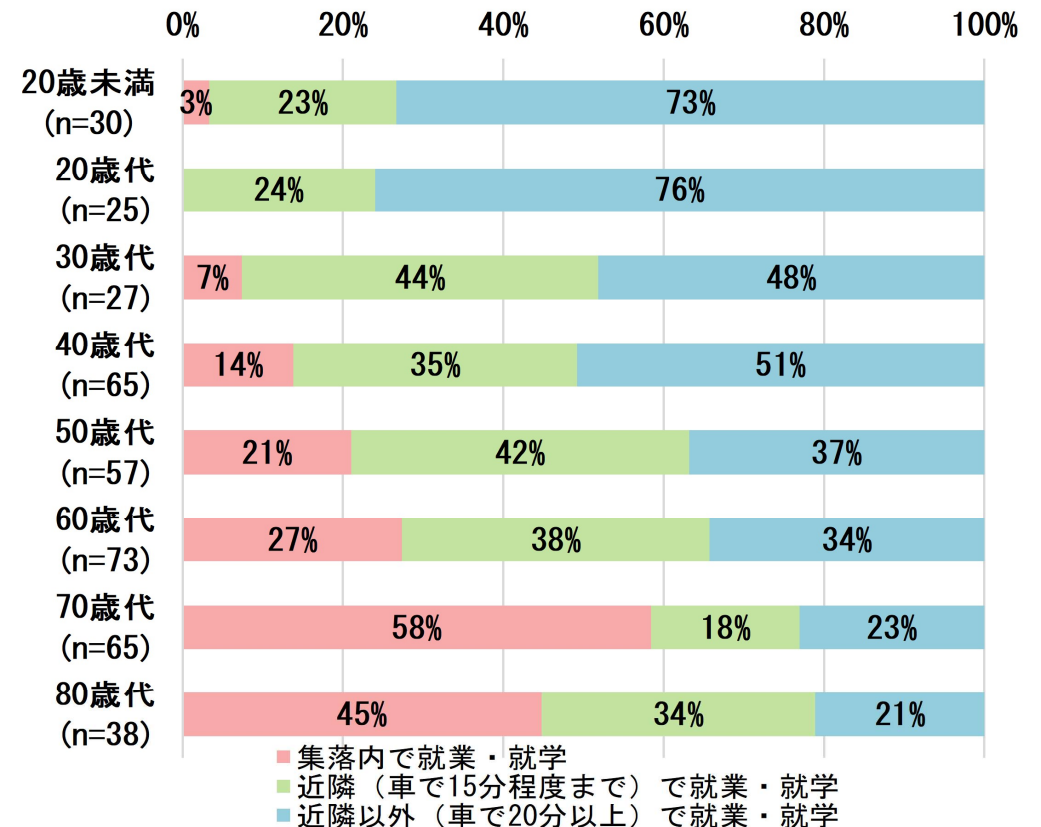
1 あなたご自身について

問7. あなたの就業・就学の場所を教えてください



● 近隣以外での就業・就学は、20歳代以下で7割を超えている

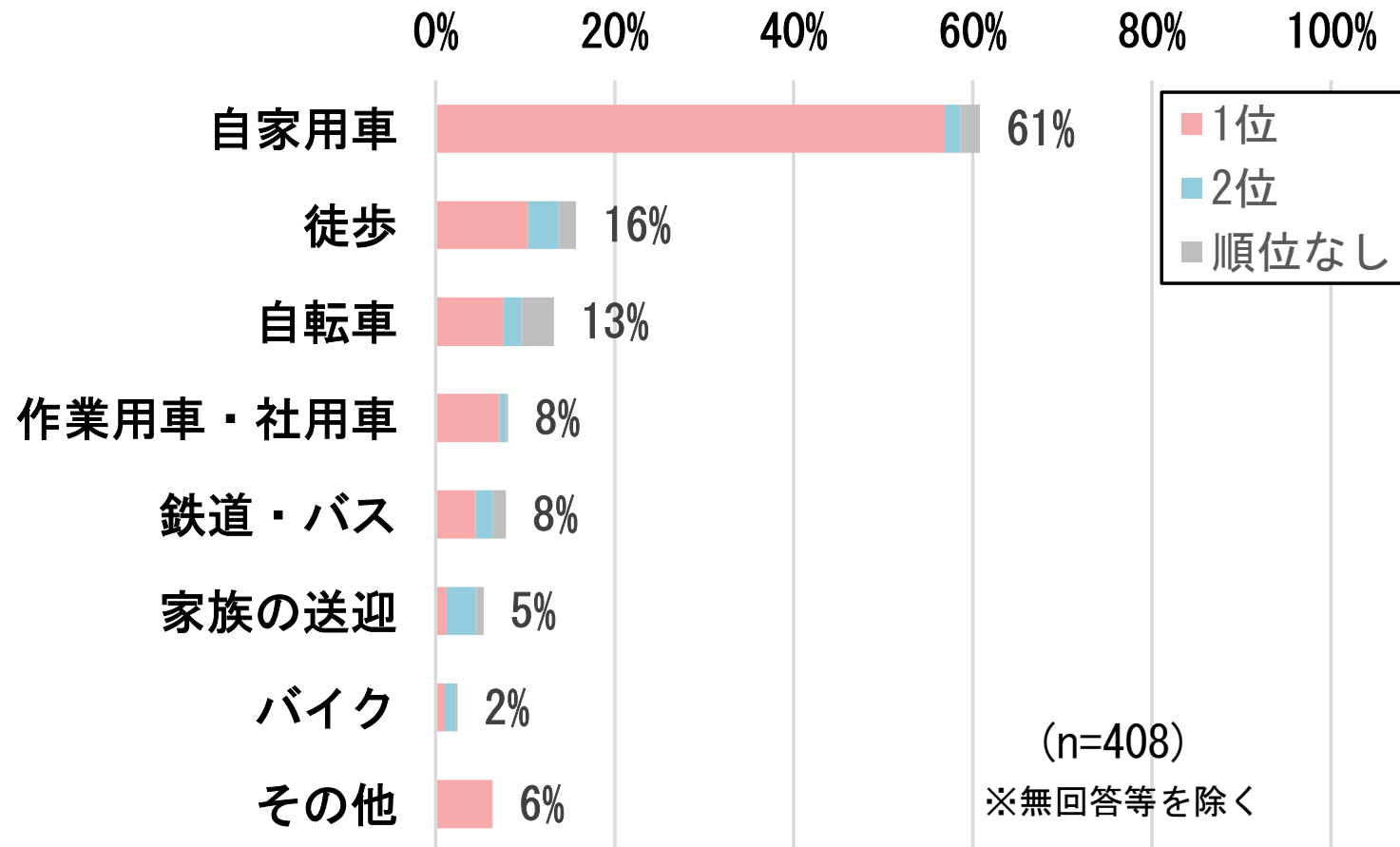
問7. クロス集計：年代



アンケート調査結果

2 集落の概況について

問8. あなたの就業・就学先への主な移動方法を教えてください
(2つまで回答可)

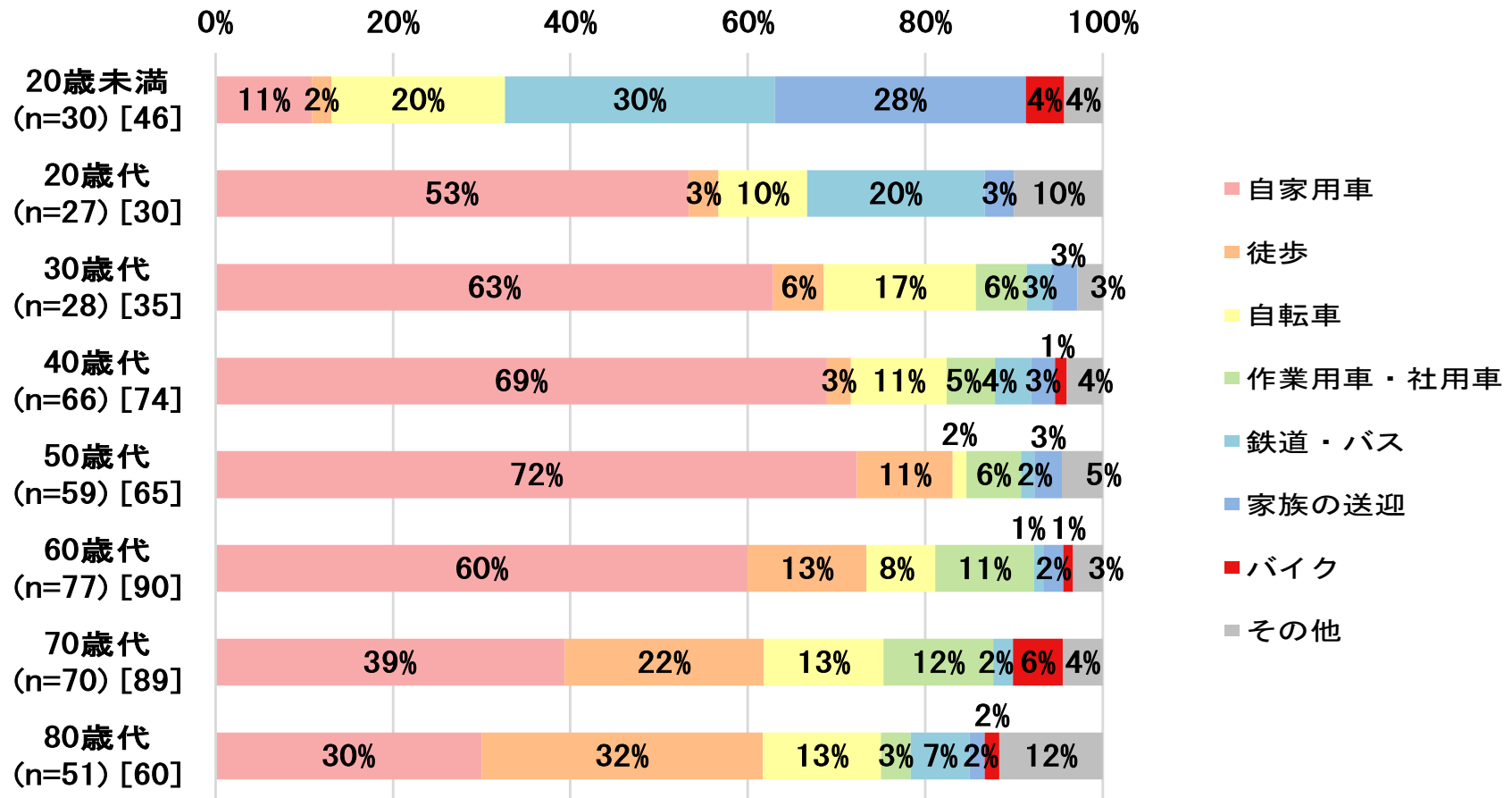


アンケート調査結果

2 集落の概況について

- 20歳未満は、「鉄道・バス」「家族の送迎」の割合が高い

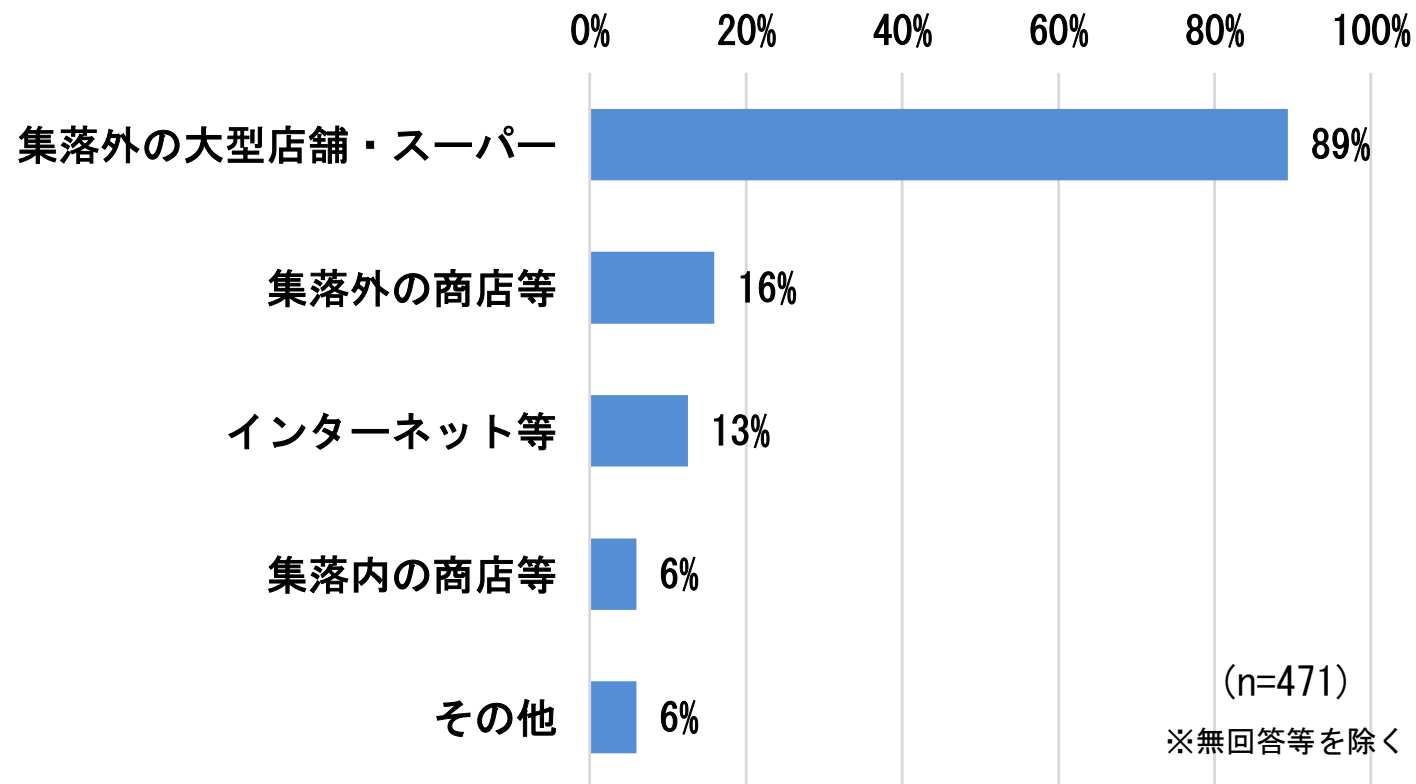
問8. 主な移動方法 クロス集計：年代



アンケート調査結果

2 集落の概況について

問9. あなたは日頃、日用品や食料品等をどこで買っていますか
(複数回答可)

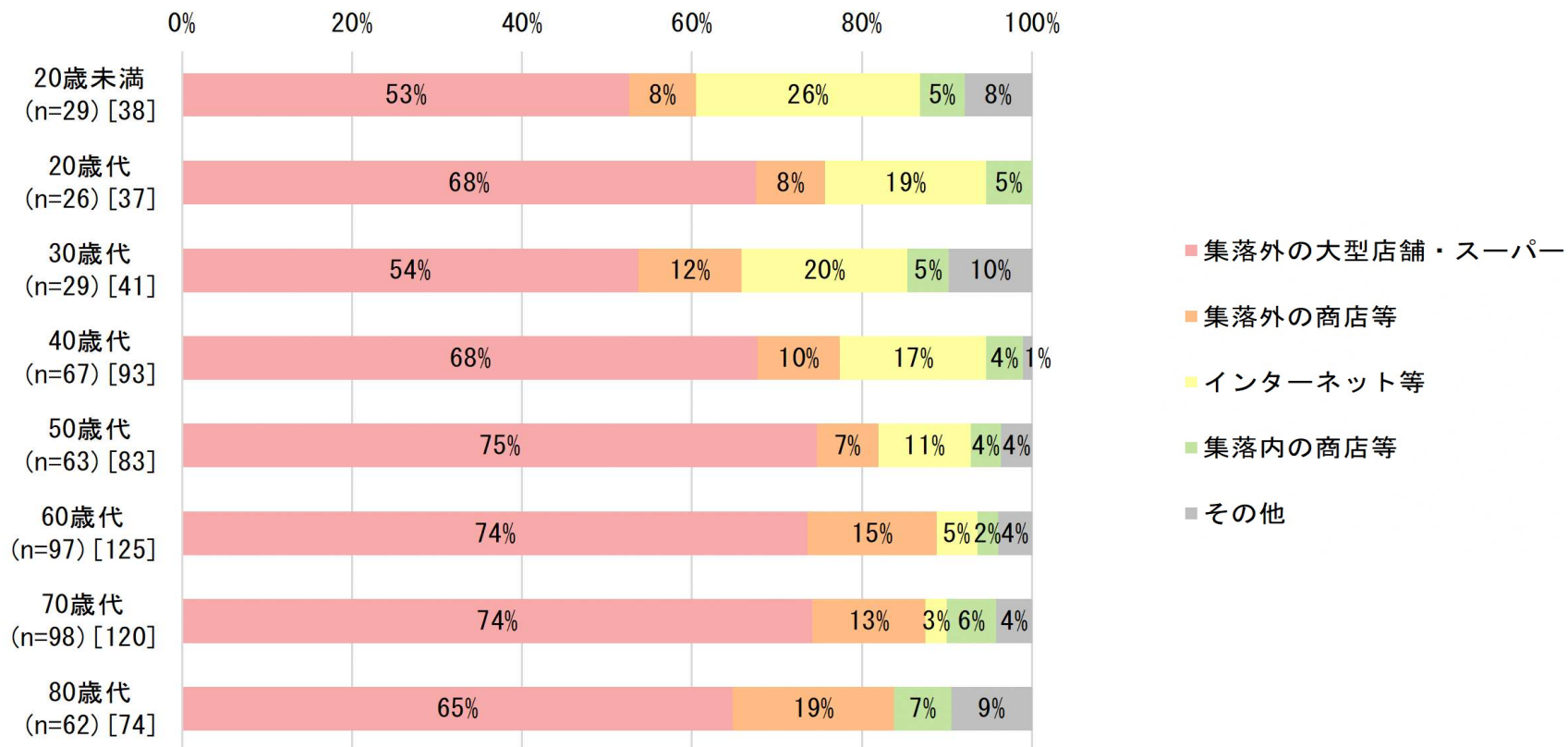


アンケート調査結果

2 集落の概況について

- 若い世代ほど「インターネット等」での買い物の比率が高い

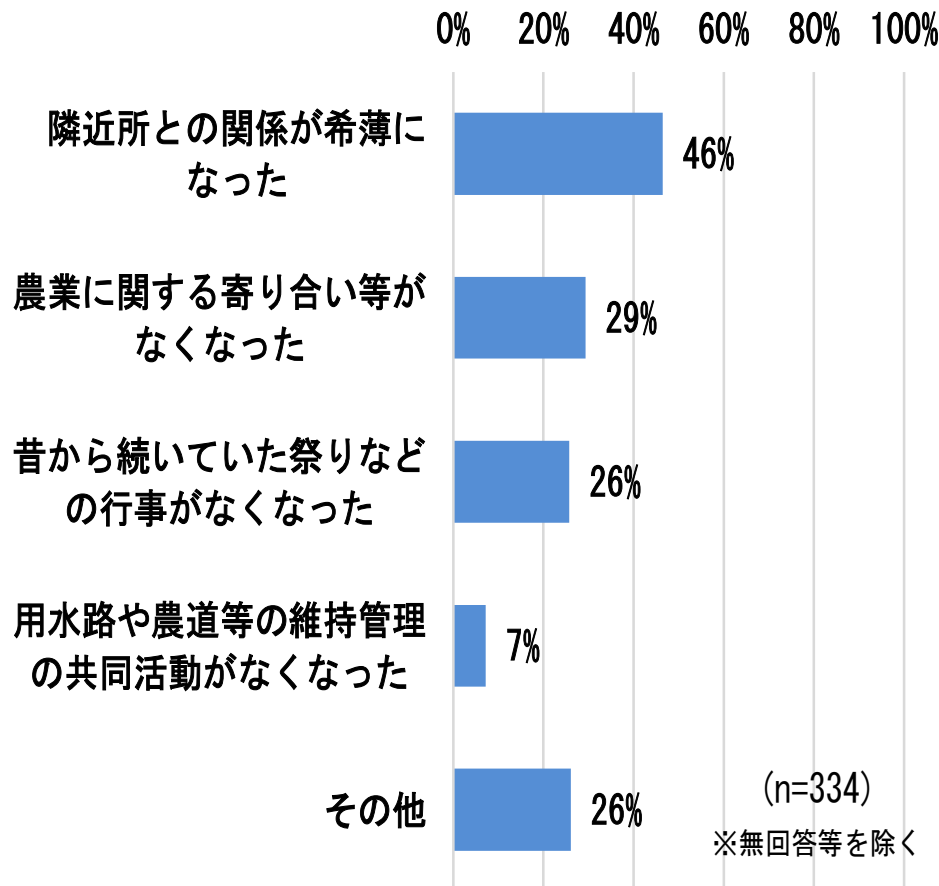
問9. 日頃の買い物先 クロス集計：年代



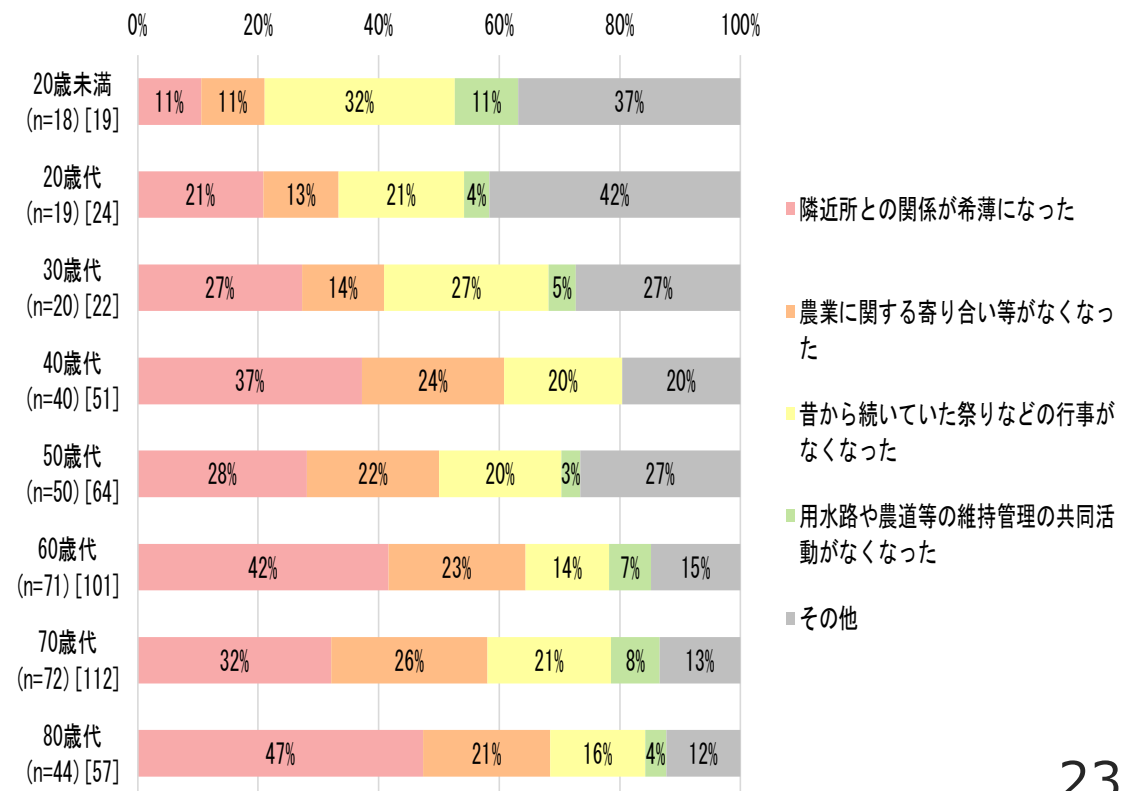
アンケート調査結果

2 集落の概況について

問10. あなたの集落で農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響があったと思える事柄があれば教えてください（複数回答可）



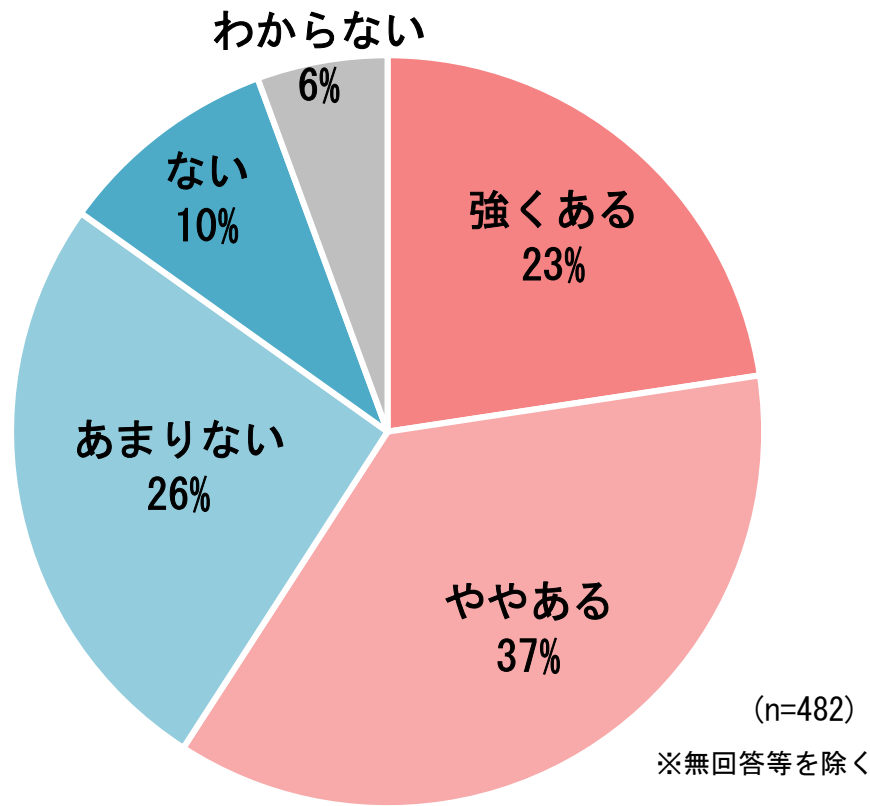
問10. クロス集計：年代



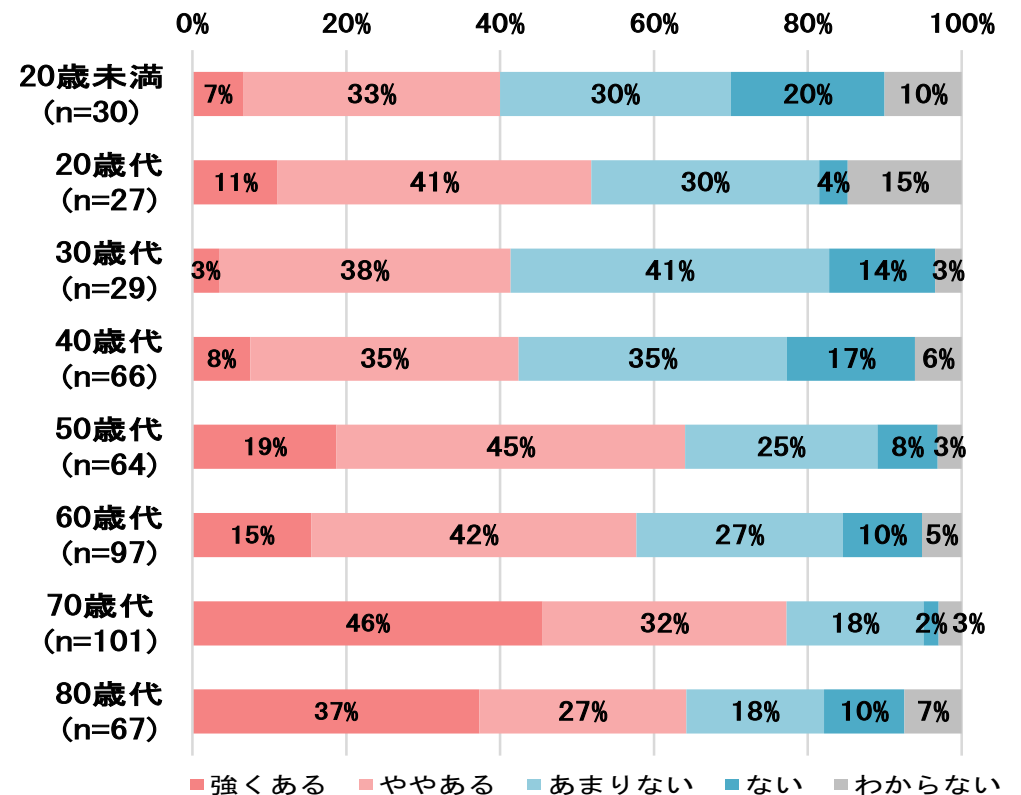
アンケート調査結果

3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りについて

問 1 1. あなたはお住まいの集落（地域）に愛着がありますか



問 1 1. クロス集計：年代

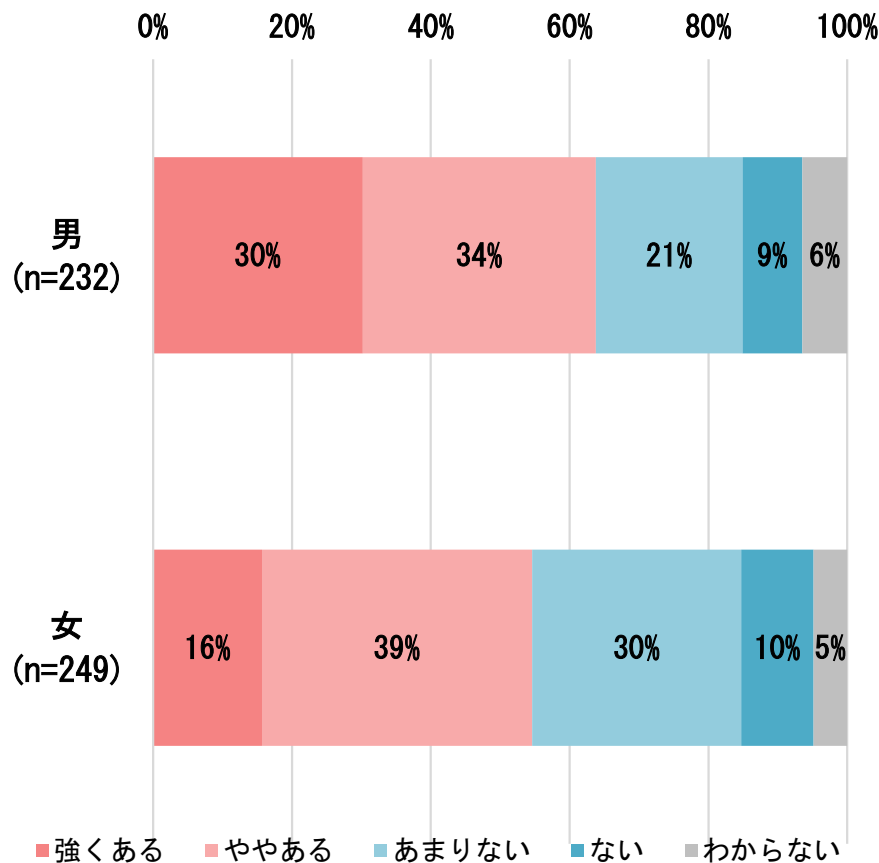


アンケート調査結果

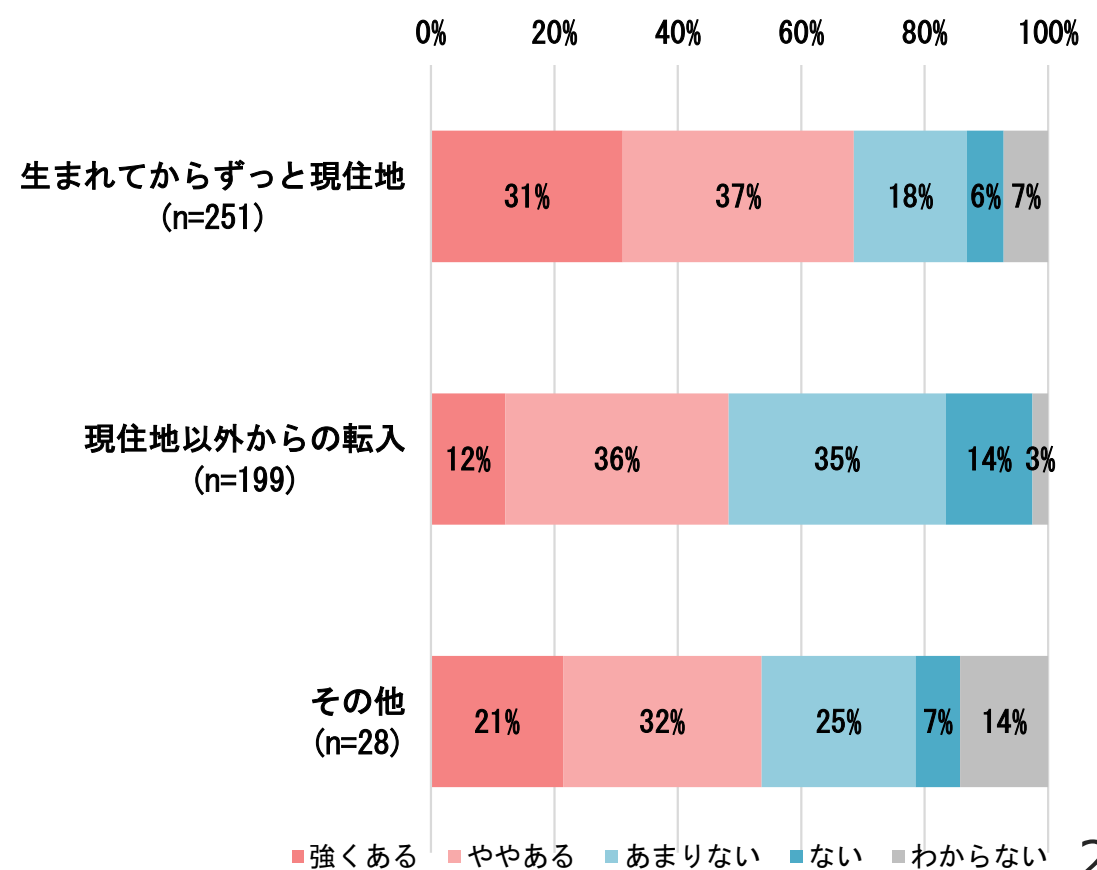
3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りについて

- 集落への愛着が「強くある」と「ややある」の合計は、男性の割合が高い

問1 1. 集落への愛着 クロス集計：性別



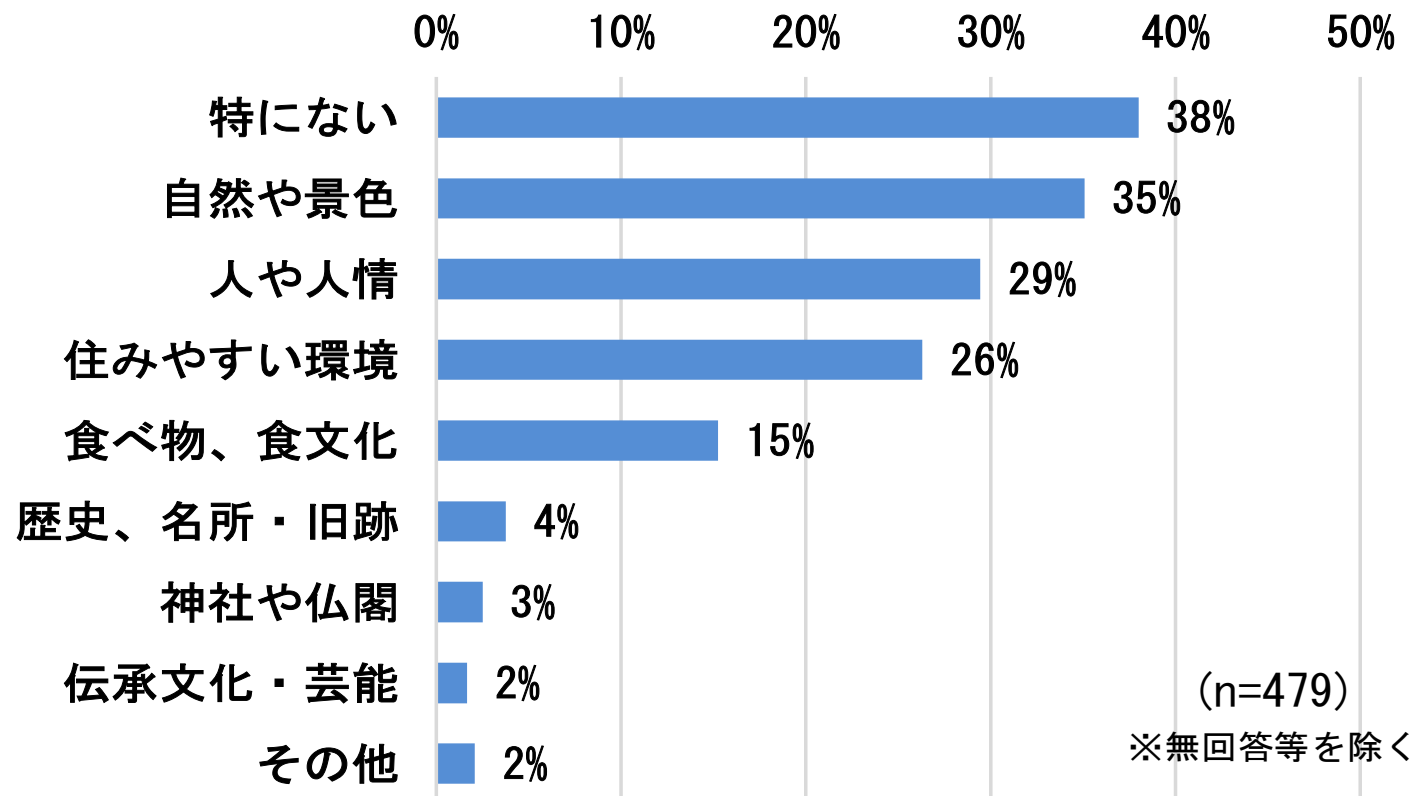
問1 1. 集落への愛着 クロス集計：住所の履歴



アンケート調査結果

3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りについて

問 1 2. あなたがお住まいの集落（地域）の魅力や誇りに思うことは何ですか（複数回答可）

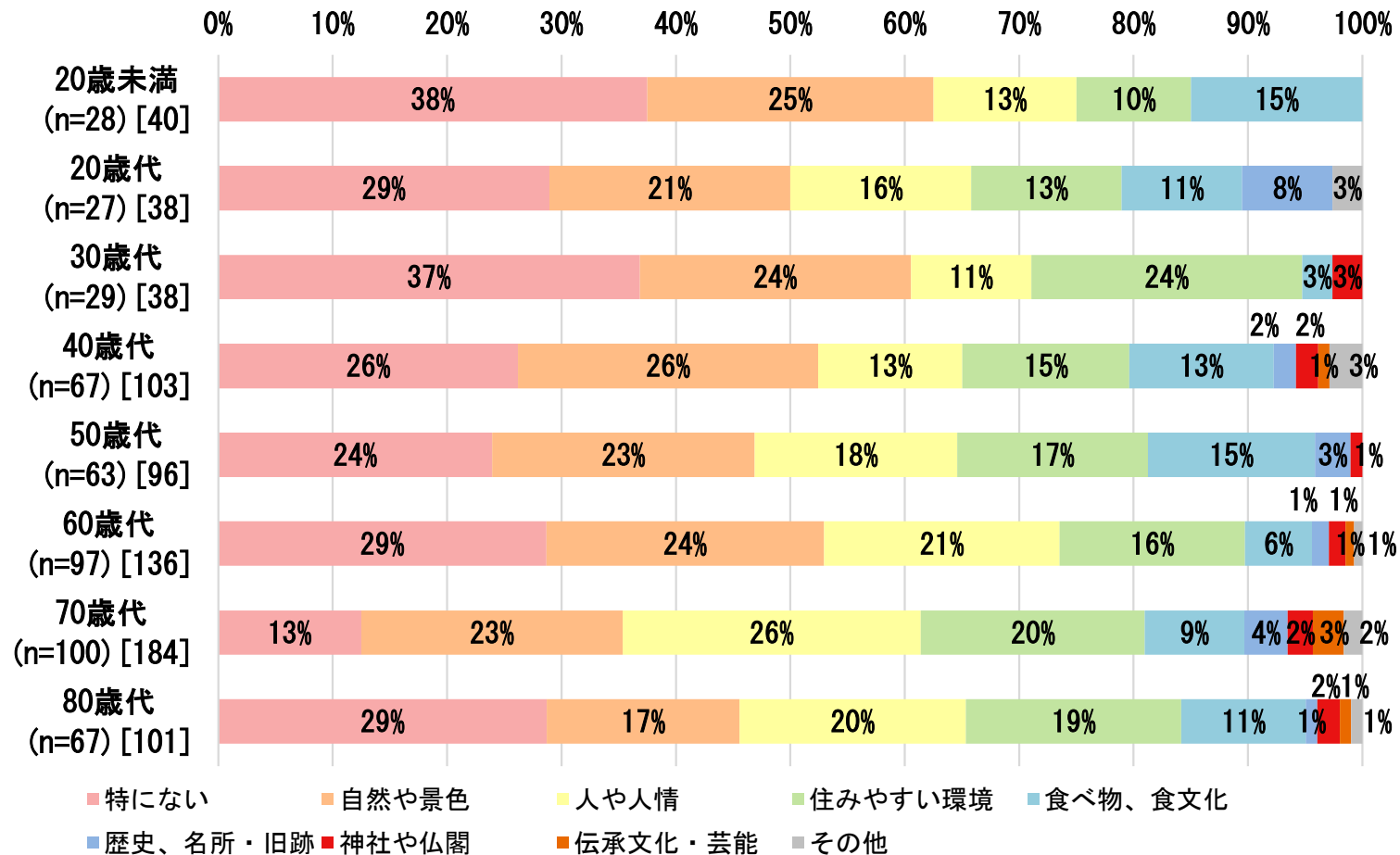


アンケート調査結果

3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りについて

- 70歳代を除く全年代で、「特にない」の割合が1番高い

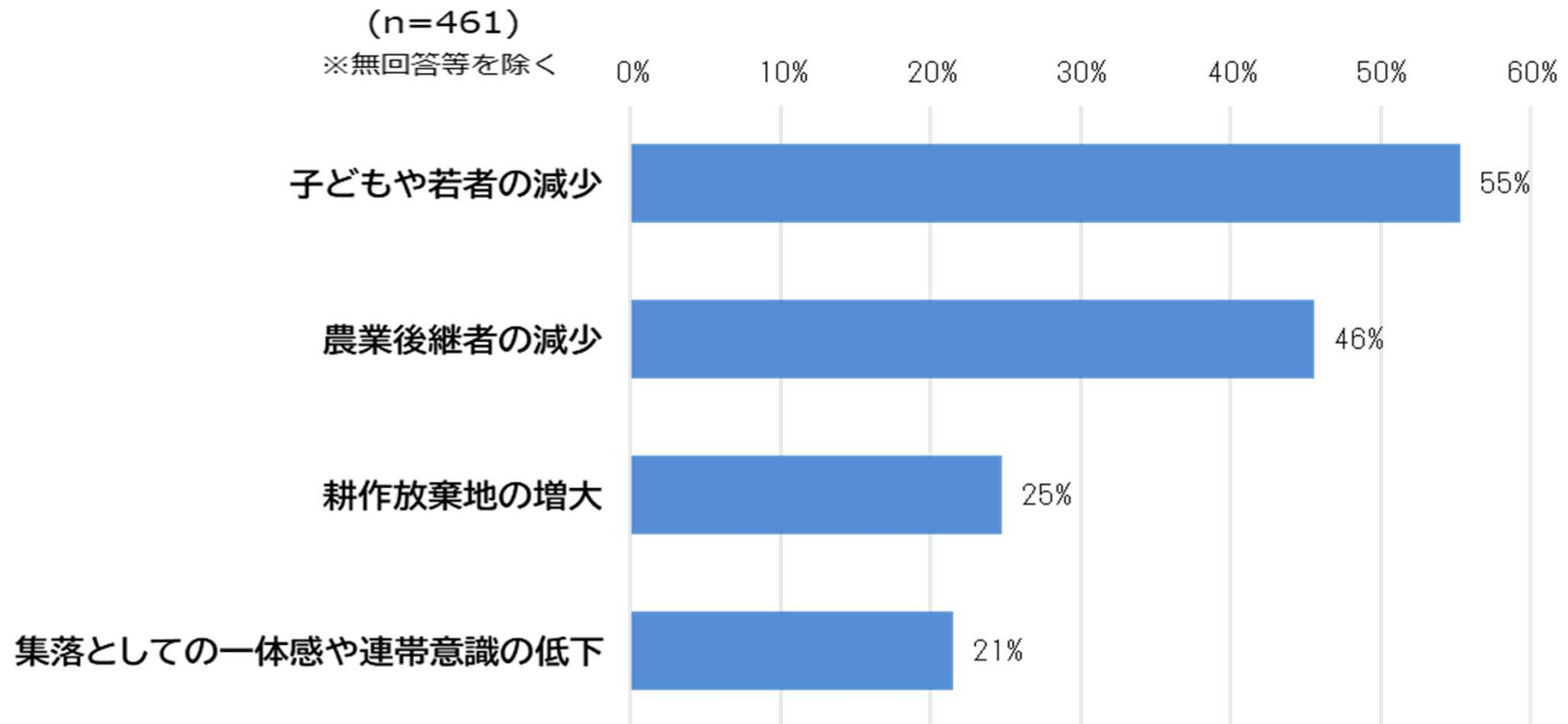
問1 2. 魅力や誇りに思うこと クロス集計：年代



アンケート調査結果

4 生活上の問題点と思うことについて

問 1 3. あなたの集落内で問題と思うことや困っていることなど
はありますか（複数回答可） ※主なもののみ

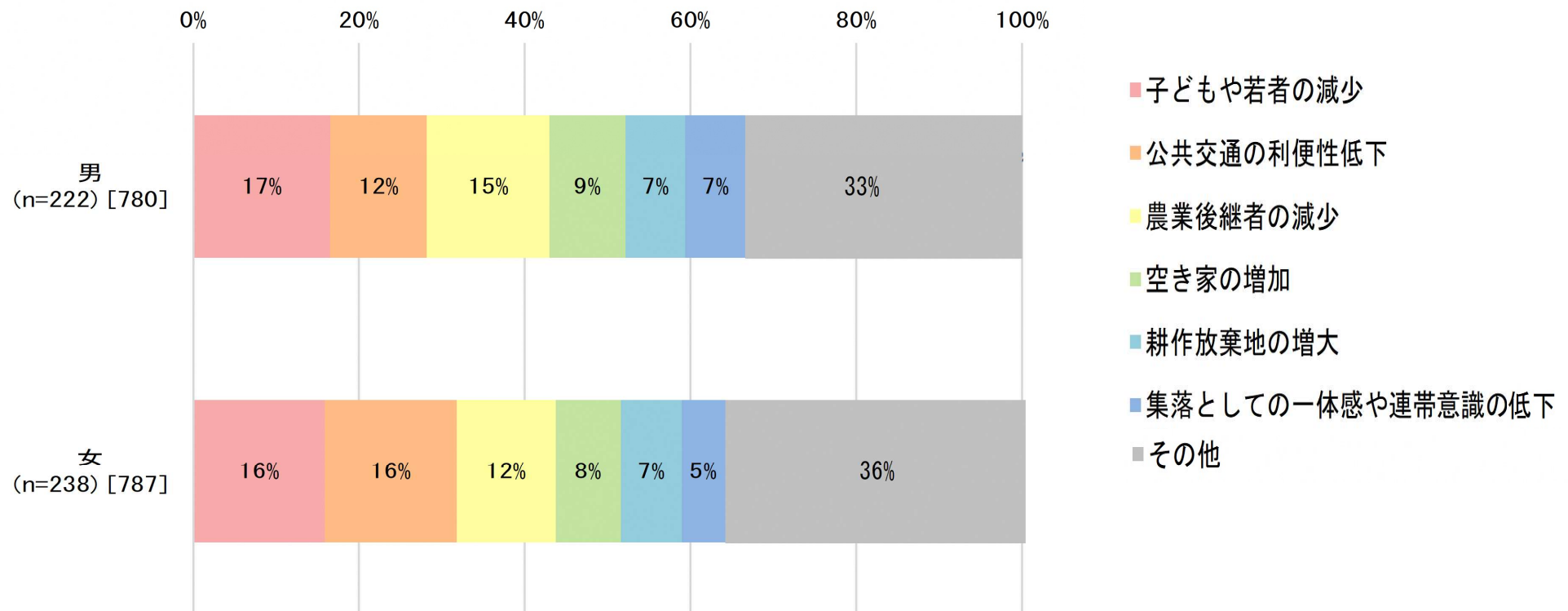


アンケート調査結果

4 生活上の問題点と思うことについて

- 男女とも、「子どもや若者の減少」の割合が高い

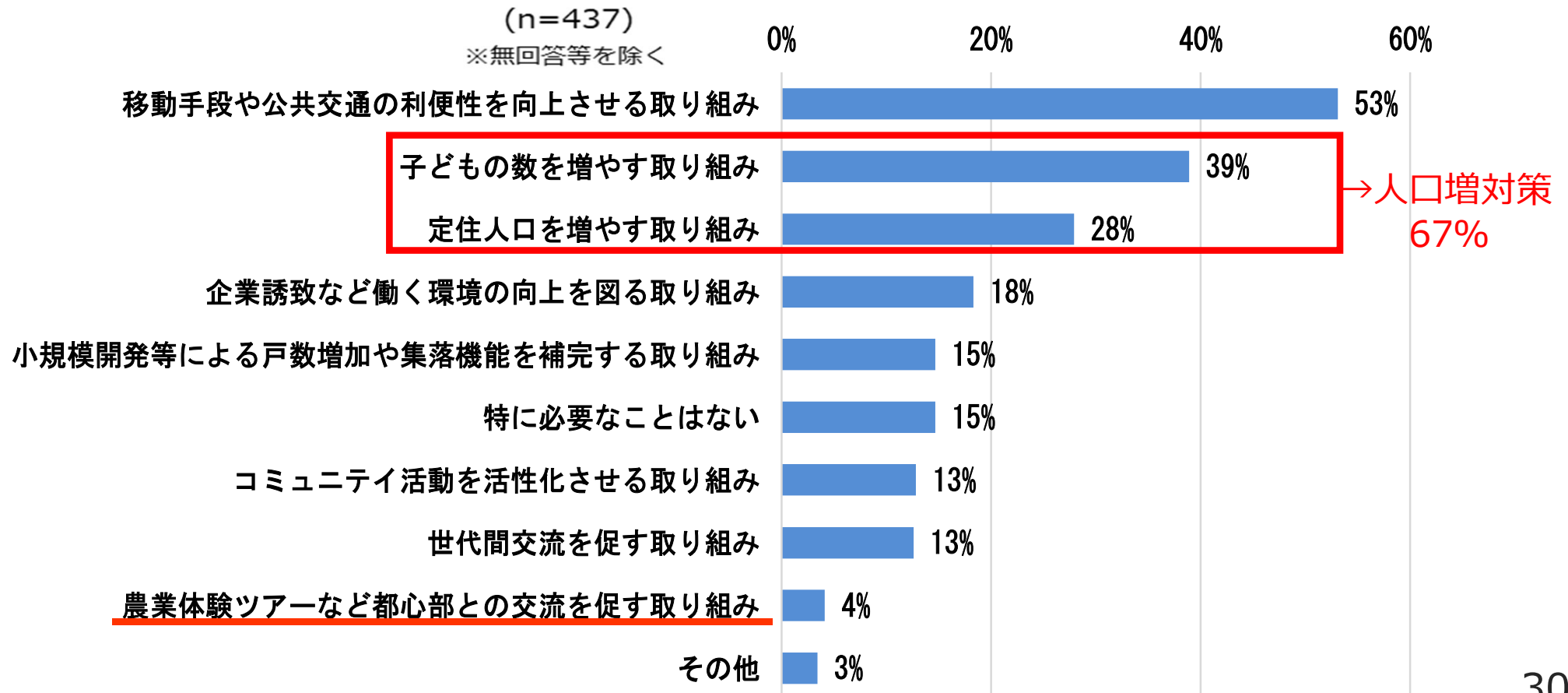
問13. 問題と思うことや困っていること クロス集計：性別



アンケート調査結果

4 生活上の問題点と思うことについて

問 1 4 . あなたの集落や集落機能を良くするために必要なことがあれば教えてください。（複数回答可）

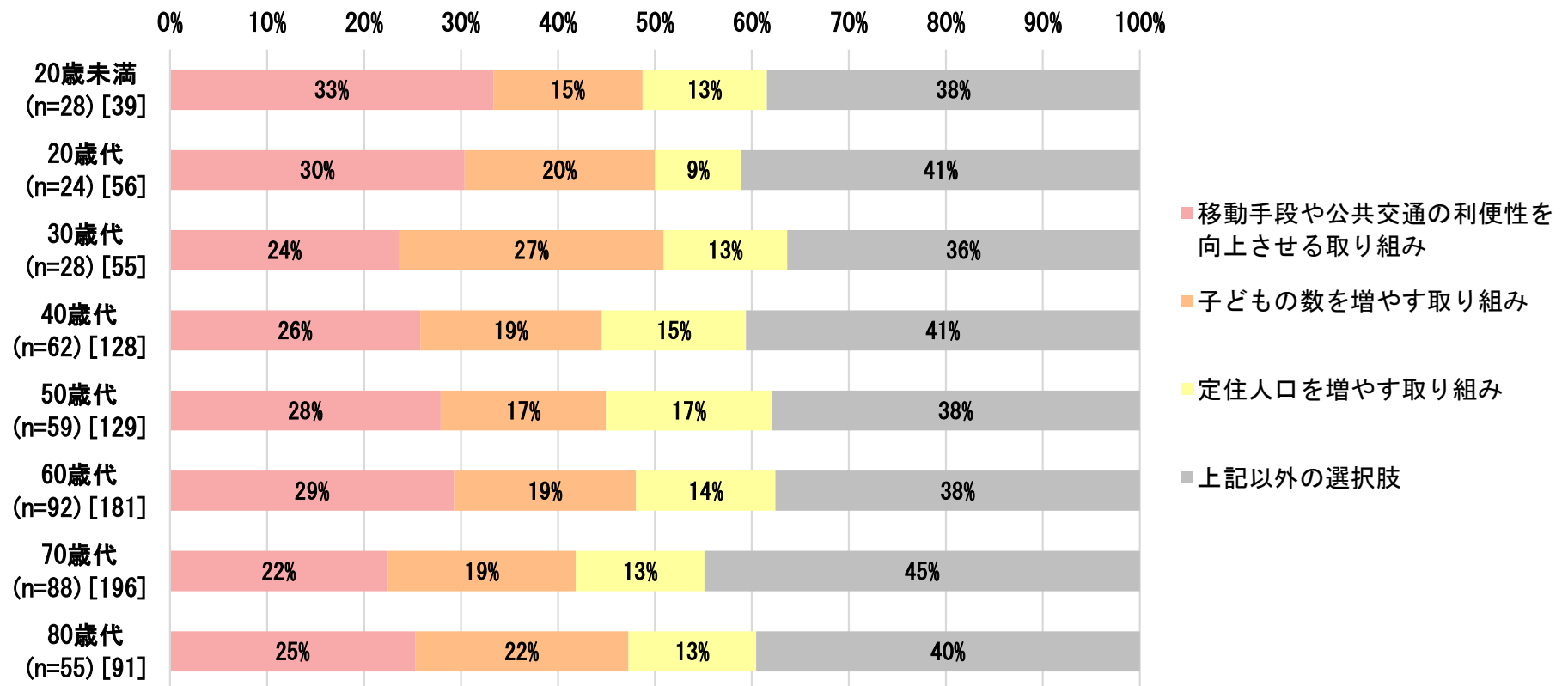


アンケート調査結果

4 生活上の問題点と思うことについて

- 年代により関心の分野は若干異なるが、傾向はほぼ同じ

問14. 集落機能を良くするために必要なこと クロス集計：年代

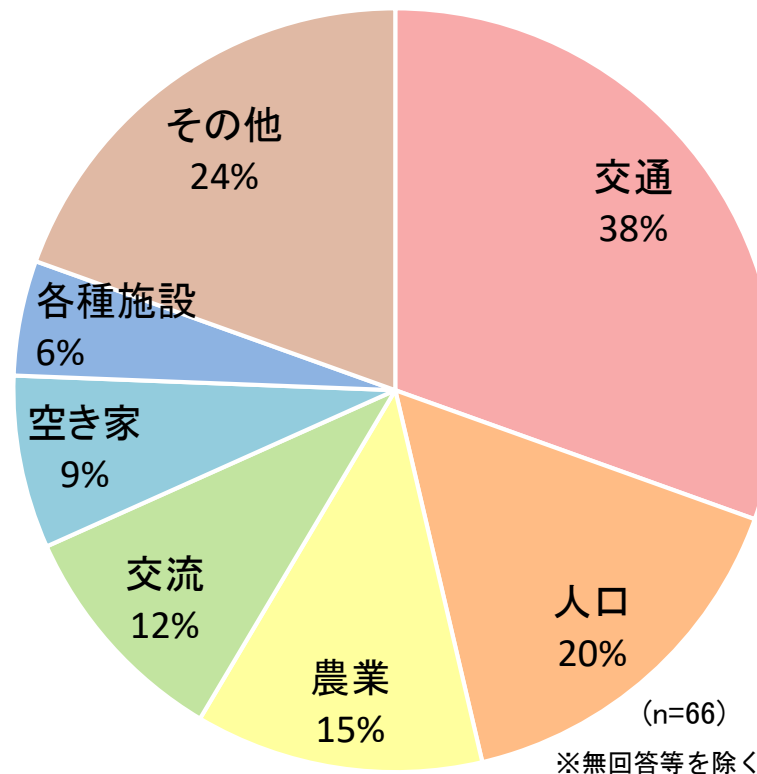


アンケート調査結果

4 生活上の問題点と思うことについて

問15. その他集落における課題やご意見等ありましたら、ご自由に記載願います。

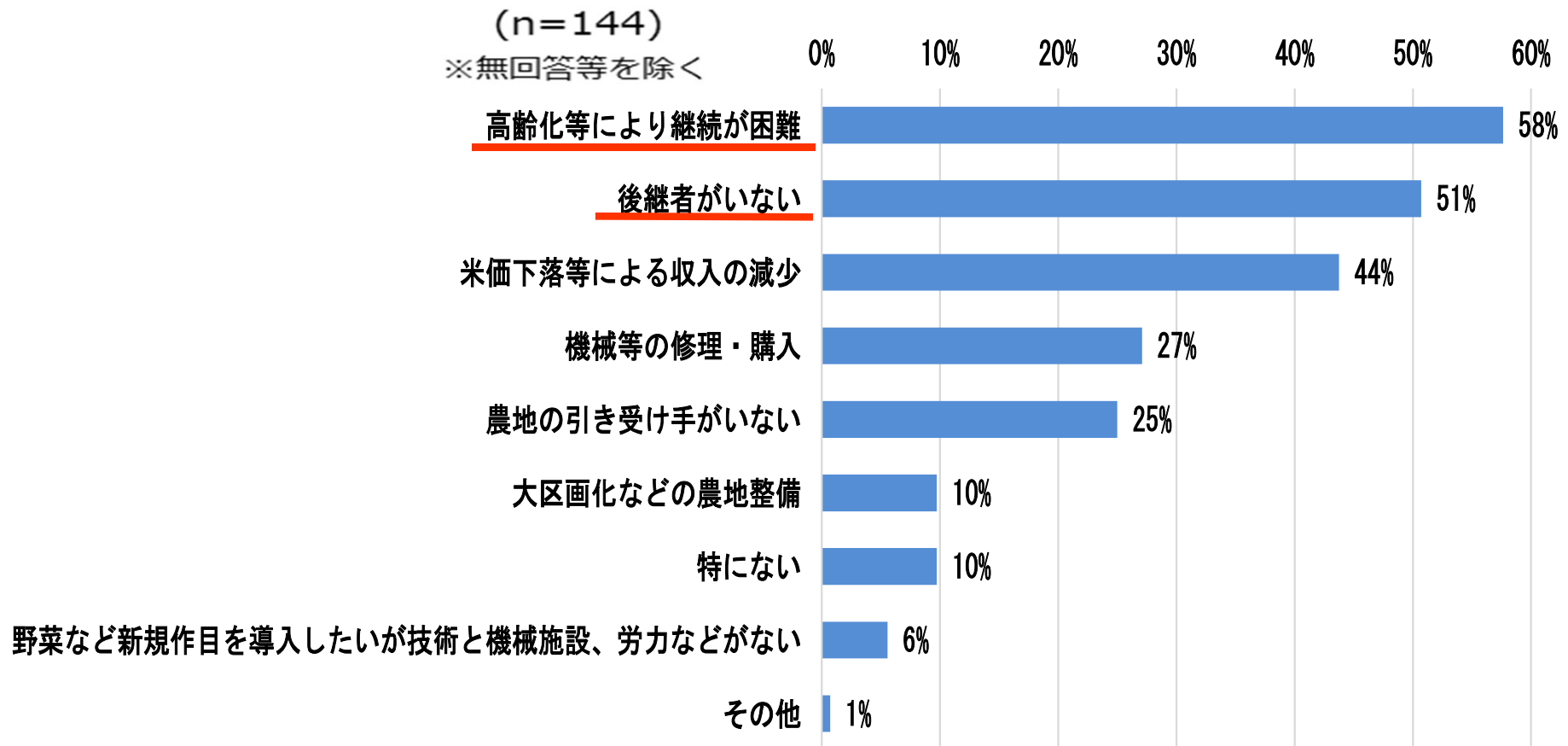
項目	交通	人口	農業	交流	空き家	各種施設	その他	サンプル数
回答率	25	13	10	8	6	4	16	66
比率	38%	20%	15%	12%	9%	6%	24%	—



アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

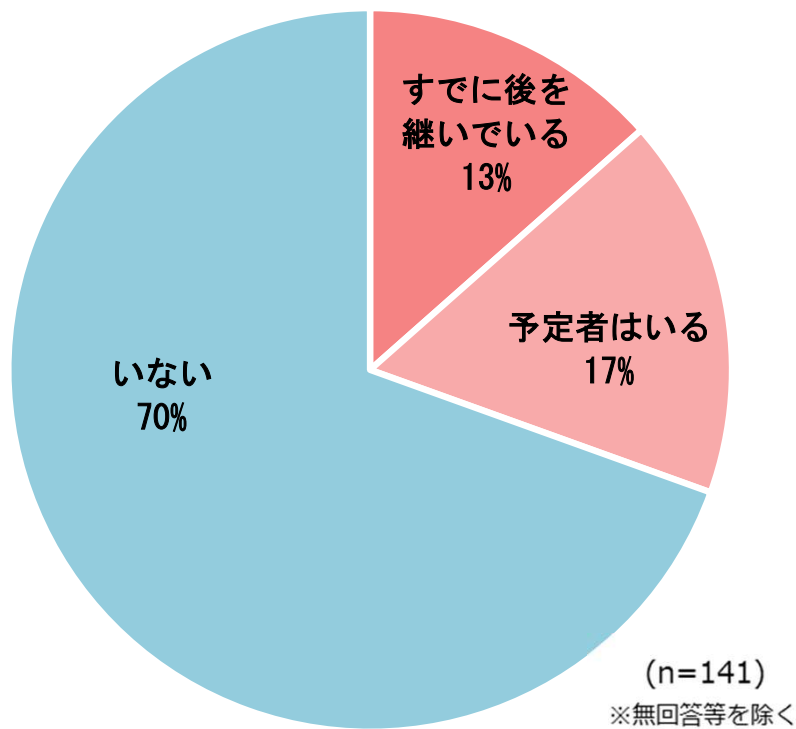
問16. あなたの家の農業経営で、いま課題となっていることは何ですか（複数回答可）



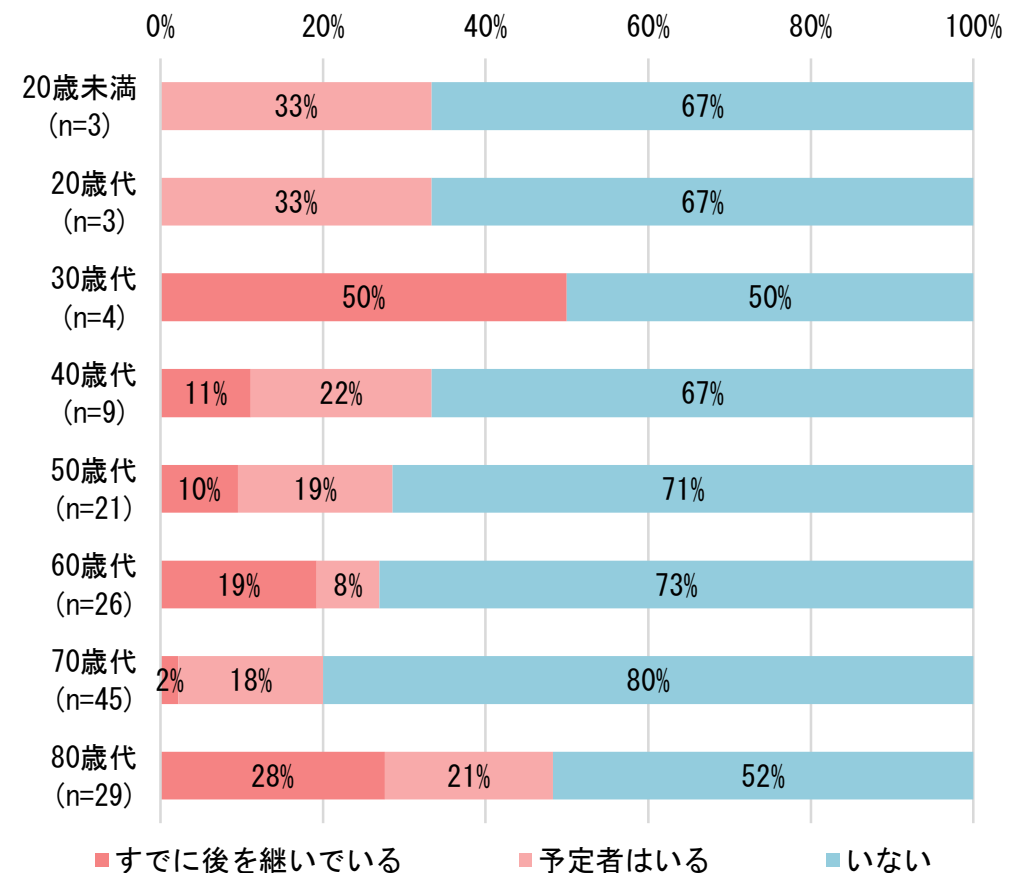
アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

問17. 農業の後継者はいますか



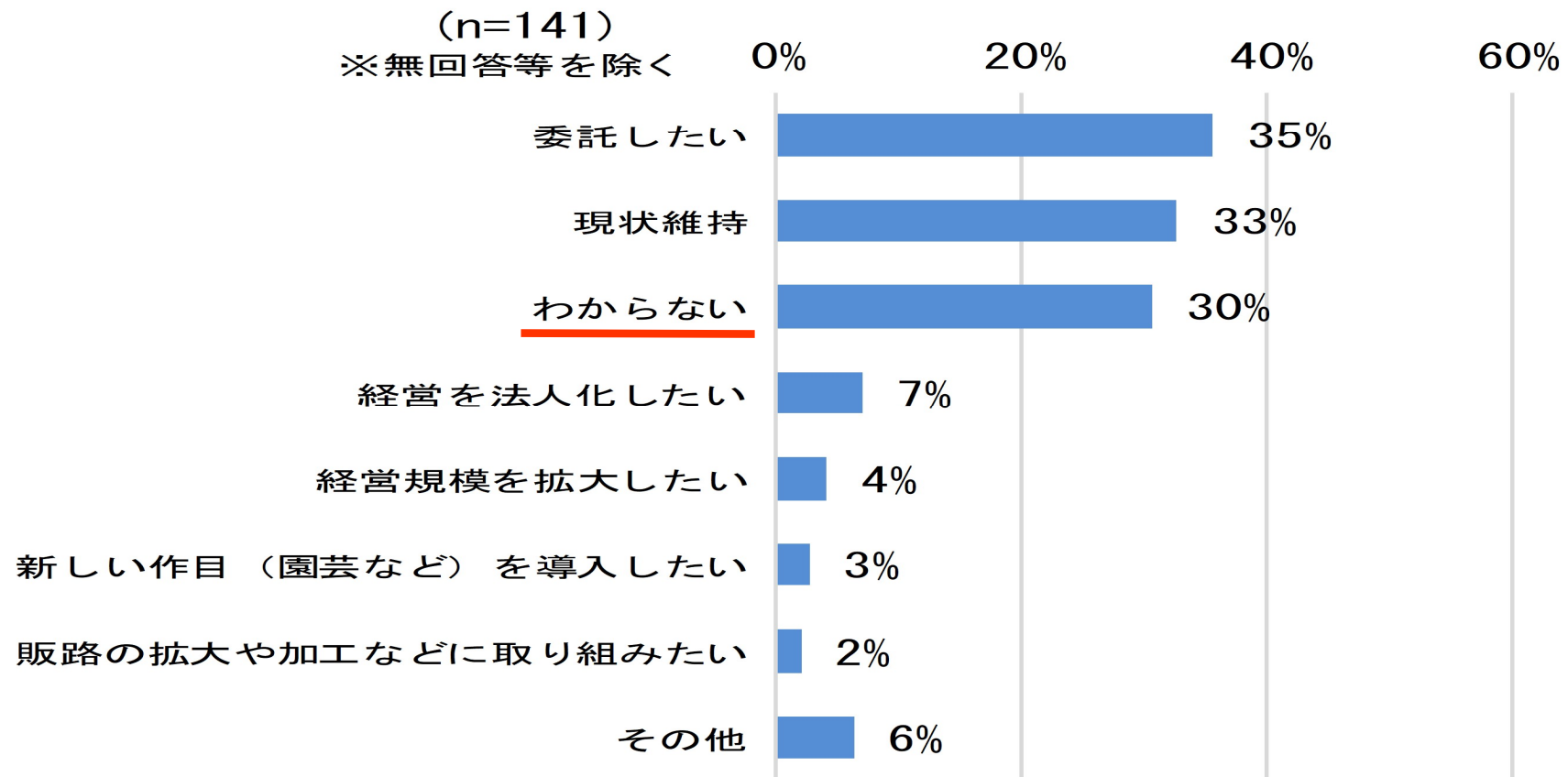
問17. クロス集計：年代



アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

問18. あなたの今後（5～10年）の農業経営についてお考えをお聞かせください。（複数回答可）



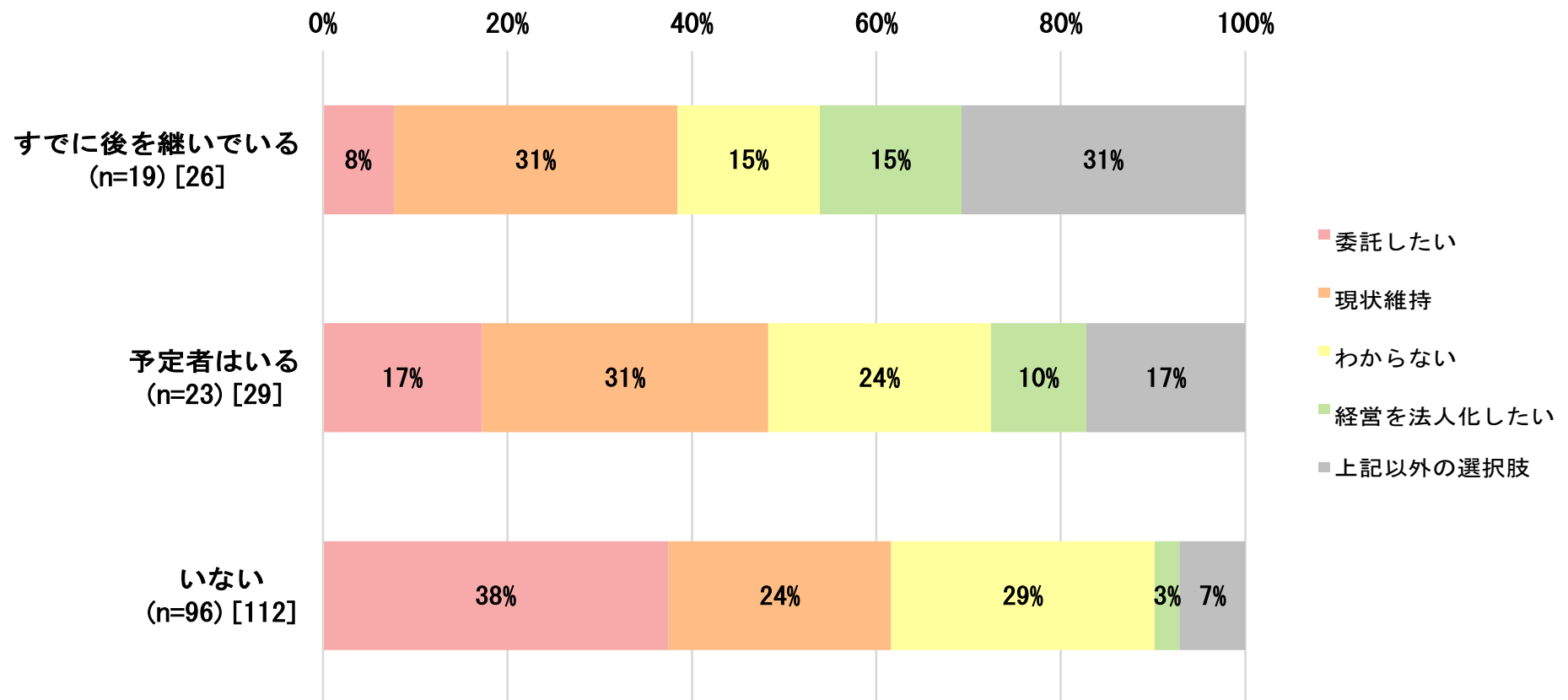
アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

- 後継者がいない農家の約4割が「委託したい」と考えている

問18. 今後（5～10年）の農業経営

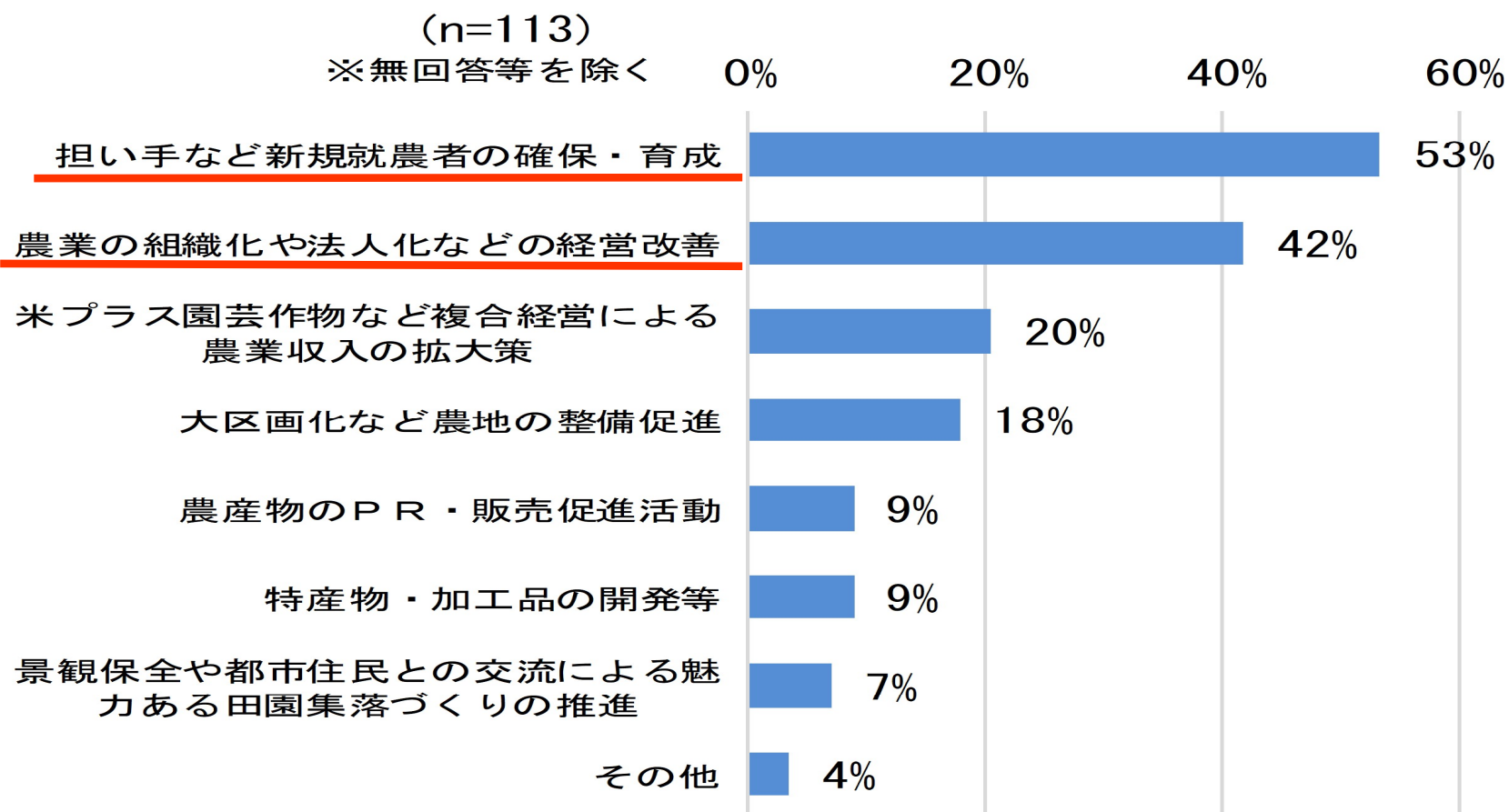
クロス集計：後継者の有無



アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

問19. あなたの集落の農業を持続的に発展させるためには、どのような施策が必要と考えますか（複数回答可）



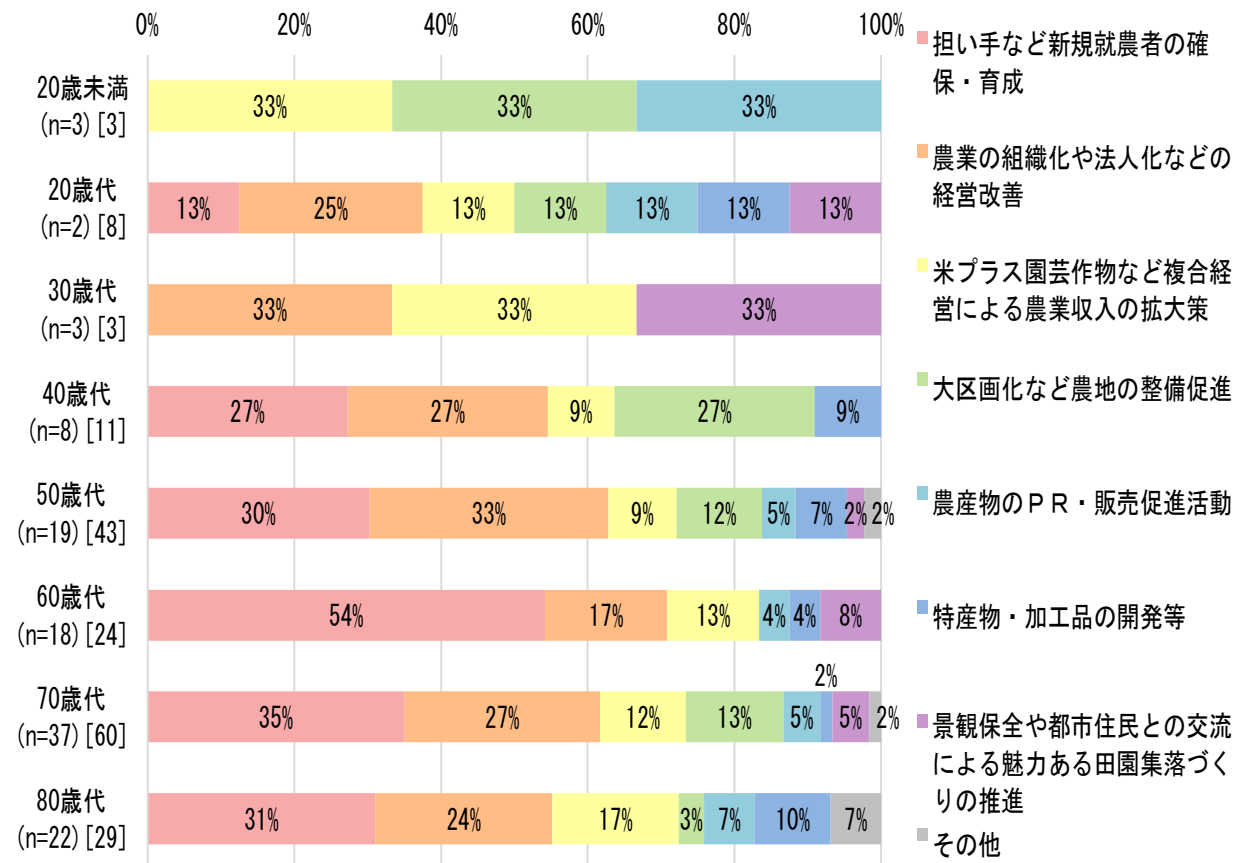
アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

問 1 9 . 集落農業を持続的に発展させるため必要な施策 クロス集計：年代

(回答者数3以下の年代を除く)

- 「担い手など新規就農者の確保・育成」は、全年代で高い割合となっている
- 50歳代以下は、「農業の組織化や法人化などの経営改善」の割合が高い

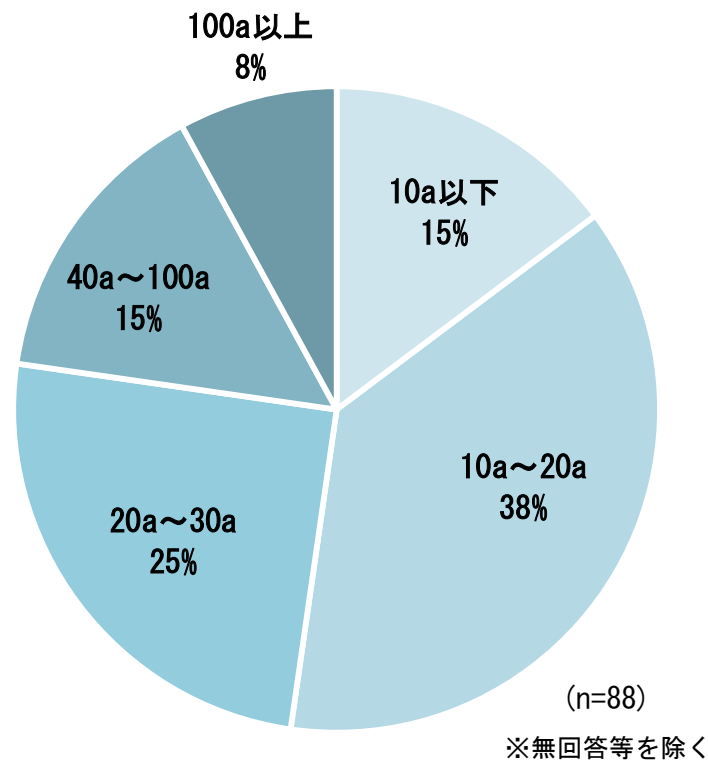


アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

問 2 1 . あなたが耕作する農地の整備状況について教えてください
(経営者または経営の代表者のみ回答)

1区画の平均面積



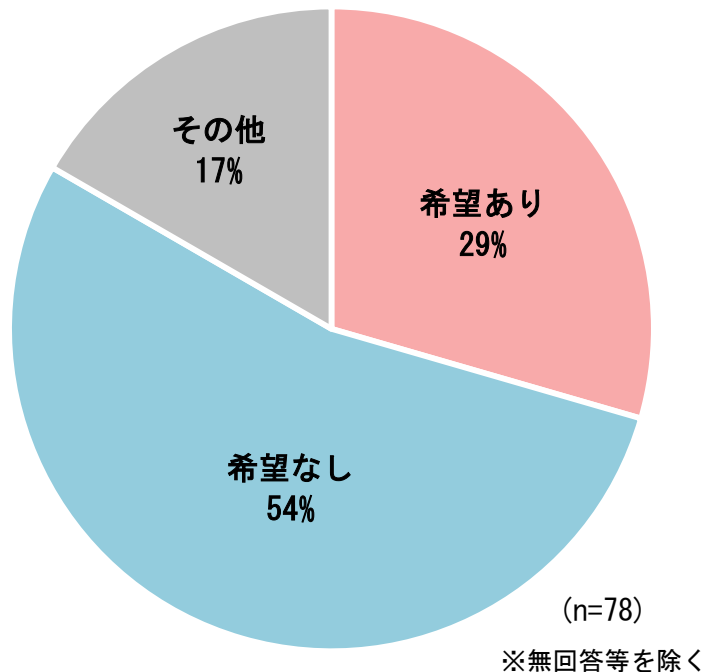
アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

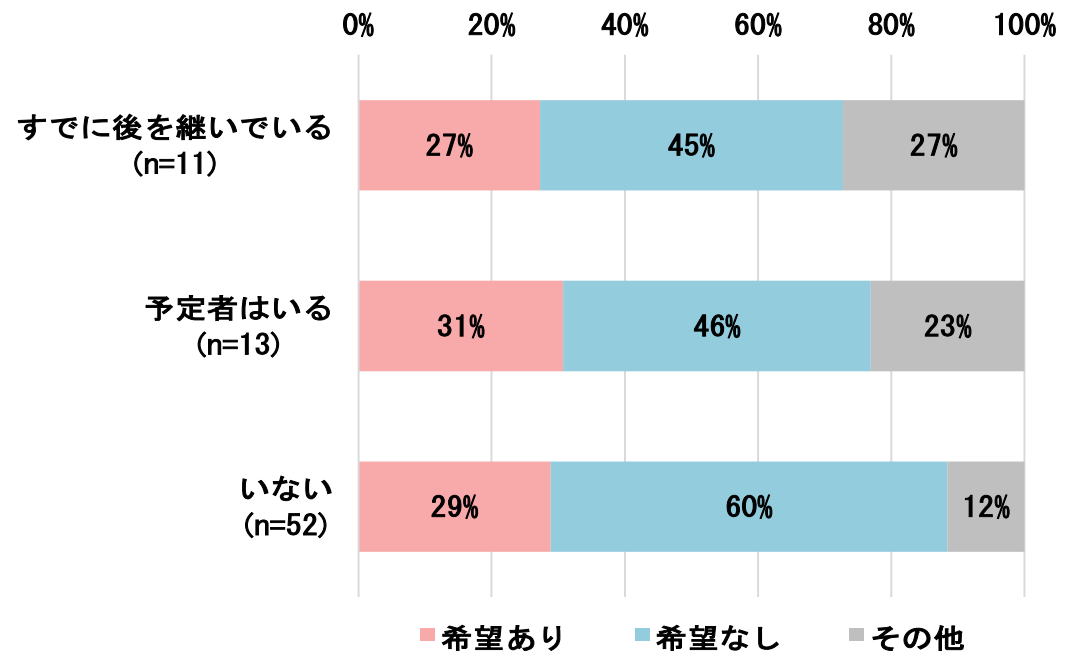
問 2 1. あなたが耕作する農地の整備状況について教えてください
(経営者または経営の代表者のみ回答)

● 後継者の有無による大きな差はみられない

今後のほ場整備について



問 2 1. クロス集計：後継者の有無

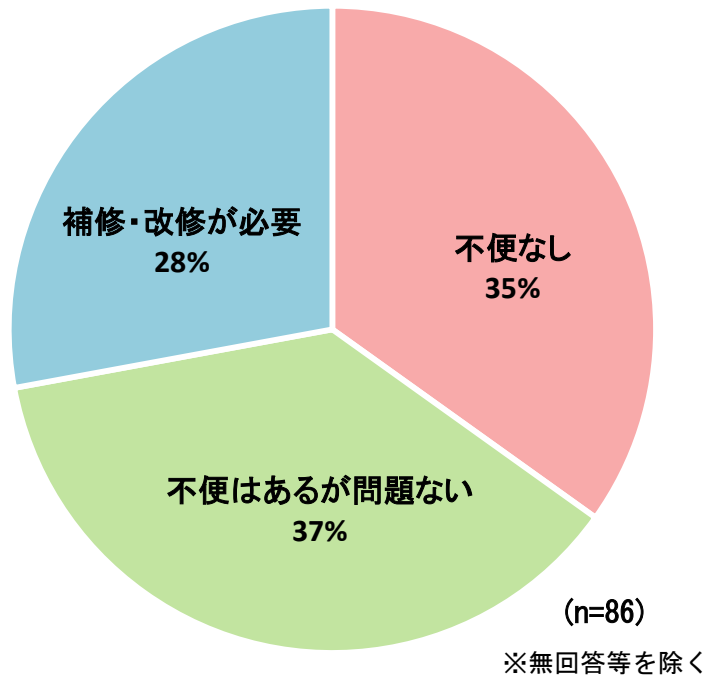


アンケート調査結果

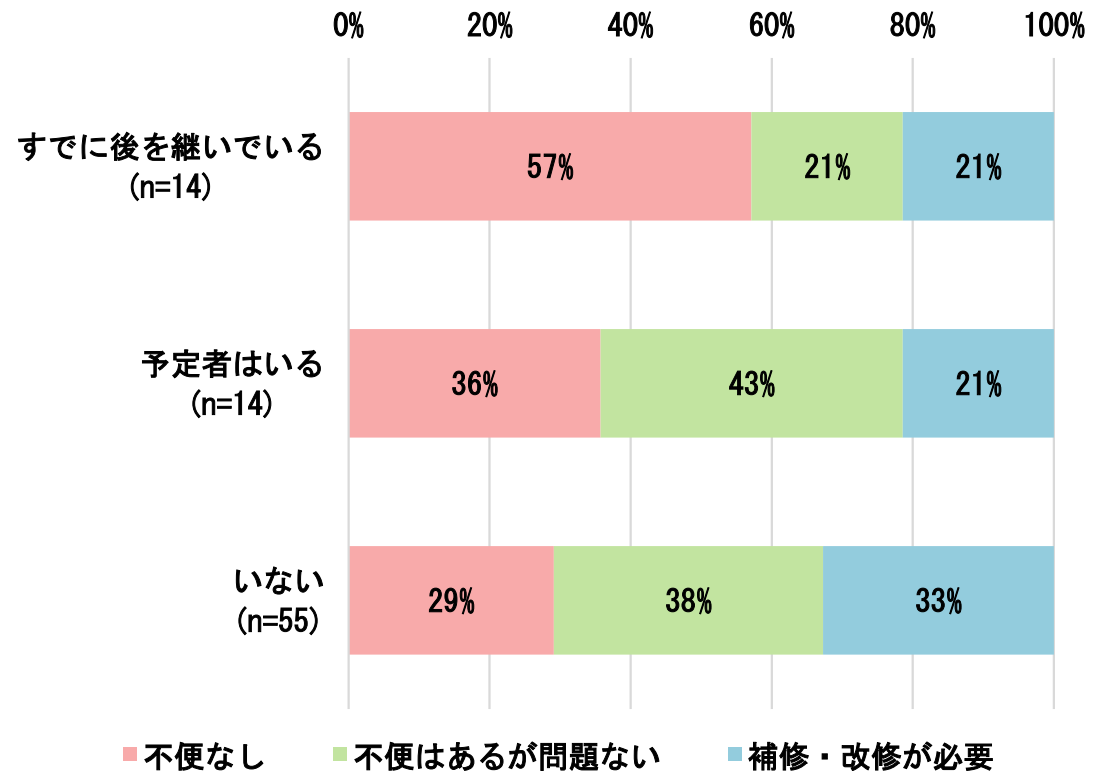
5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

問2 1. あなたが耕作する農地の整備状況について教えてください
(経営者または経営の代表者のみ回答)

用排水の状況（現状）



問2 1.クロス集計：後継者の有無

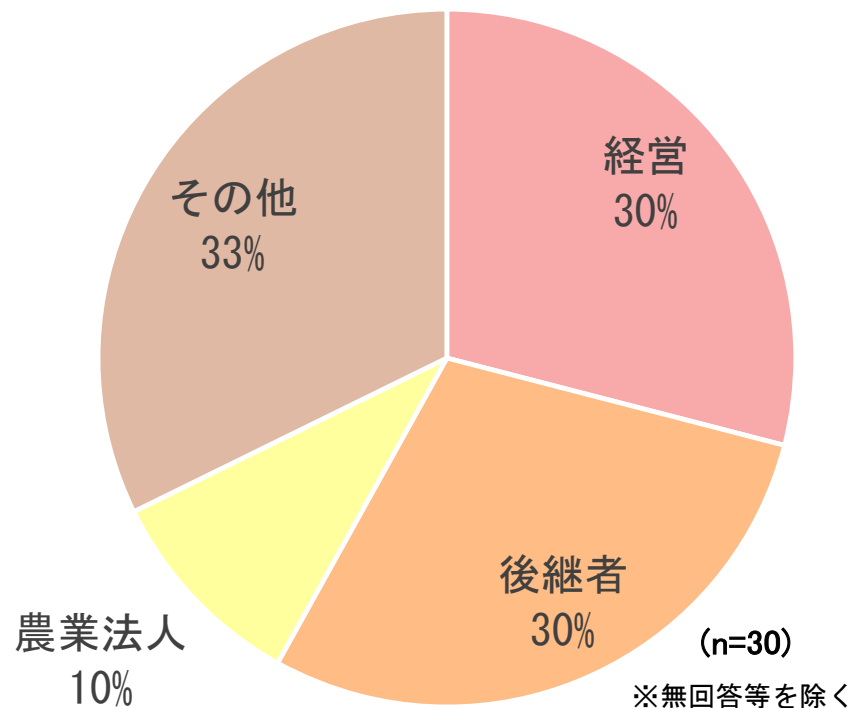


アンケート調査結果

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について

問22. 今後の農業経営についての課題やご意見等がありましたら、ご自由に記載願います

項目	経営	後継者	農業法人	その他	サンプル数
回答数	9	9	3	10	30
比率	30%	30%	10%	33%	—



- 自由記述では、経費増大や農産物の価格低迷などの経営に関する内容や、後継者に関する内容が多い

調査結果の要約

代表者ヒアリング

1 集落の概況について

- 全集落の人口は減少傾向だが、世帯数は概ね横ばい
- 近隣に分家をつくるかたちで世帯が増える事例が多く、新たに転入などで世帯が増える事例は少ない

2 生活環境について

- 耕作放棄地は3集落で生じ、所有者が対応しきれていない事例もある

3 支え合いについて

- 高齢者のみの世帯では、子どもや親戚、介護ヘルパー等との交流がみられ、現時点で日常生活に困っているという状況にはないという意見が多い

調査結果の要約

代表者ヒアリング

4 集落行事について

- 全集落で、年1～2回程度の祭りを実施しており、住民の交流の場となっている
- 江浚いなどの共同作業は年1～2回実施
- 草取りやゴミ拾い、公園の管理などを集落で実施しているところもある
- 今後、農家や世帯数の減少、高齢化が続くと、人手が足りなくなる可能性が高い

5 集落の課題等について

- 自治会費に関する話題が多く、世帯数が少ないため1世帯の負担が大きくなっている

調査結果の要約

代表者ヒアリング

6 地域農業の就業状況と農業経営について

- 担い手の減少、後継者の不足が喫緊の課題となっている
- ほ場整備をしていない集落では、耕作しにくいいため委託を断られたり、農業機械を使って効率化を図ることができないなどの問題が生じている
- 法人を設立し大規模経営を行っている集落がみられたが、数は少ない

7 農業の経営課題について

- 農業機械や生産資材の価格上昇に伴う負担増、米価の低迷、担い手不足に関する課題意識が強くみられる

調査結果の要約

アンケート調査

1 あなたご自身のことを教えてください

- 農村集落の住民の約5割が農業に関わりがなく、そのうち、以前は農家だったのは約2割（問4）
- 男性は「生まれてからずっと現住地」の割合が72%と高い一方、女性は「現住地以外からの転入」の割合が59%と高くなっている（問5）

2 集落の概況について教えてください

- 農家戸数の変化が集落活動に及ぼした変化や影響では、「隣近所との関係が希薄になった」が最も多い（問10）

調査結果の要約

アンケート調査

3 あなたが感じる集落（地域）の魅力や誇りについて教えてください

- 集落の愛着については、「強くある」と「ややある」の合計が60%となっている（問11）
- 集落の魅力や誇りに思うことでは、回答者数479人のうち182人が「特にない」と回答している。（問12）

4 生活上の問題点と思うことについて教えてください

- 集落の問題と思うことは、「子どもや若者の減少」が最も多く、人口減少や高齢化への課題意識が強くみられる（問13）

調査結果の要約

アンケート調査

5 あなたの農業の就業状況と農業経営について教えてください

- 農業経営の課題、必要な施策に関しては、後継者の確保、育成に関する割合が高く、担い手の確保に対する危機感が強い（問16、問19）
- 農家のうち、7割が後継者を確保できていない状況である（問17）
- 今後の農業経営についての考えでは、「委託したい」の割合が35%で最も高く、次いで「現状維持」が33%、「わからない」が30%となっており、規模拡大や新たな取り組みに挑戦をしたいという農家は少ない（問18）

総括

農業について

1. 農業機械や資材の価格上昇、米価の低迷等により、農業経営は厳しい状況にある。特に農業機械の更新が大きな負担
2. 担い手の確保が喫緊の課題。組織化や法人化を進める必要がある。しかし、組織化や法人化への関心は高いものの、集落内の話合いや調整は進んでいない
3. 効率的な耕作のためには、ほ場の大区画化が望ましいが、農業経営が厳しい中、農家自身の負担で整備を行うことは困難

集落について

1. 農業に携わらない世帯の割合が増えて、農家と非農家の混在化が進み、集落における課題と価値観は多様化
2. アンケート調査では、約4割が集落への愛着が「ない」、「あまりない」、また、魅力や誇りに思うことは「特にない」と回答。特に若い世代は集落での生活に拘らない人が多いと考えられ、さらに人口流出が進む懸念
3. 祭りなどの集落行事は、住民同士の関係づくりや集落への愛着が希薄になりつつあるなかで、交流の場、伝統継承の場として重要な役割

集落について

4. 耕作放棄地が発生しており、今後人口減少が進むにつれて増加すると予測される。管理されずに荒れたままになっている場合は、害虫が発生したり、景観などに悪影響が生じることから、継続的な対応策が必要

まとめ

- 今回の調査は、農業上形成されている地域社会を対象とした。
- 本市集落は、古くに整備された農業基盤を背景にしつつ、都市化により、地域中心へのアクセシビリティが高まり、多様な就業選択も可能となった。
- その結果、生産の場としての集落よりも居住の場としての集落の性格が強まっており、同時に居住の場としても課題が大きくなっている。
- 集落が地理的、歴史的、文化的に保持してきた環境やノウハウを状況に応じてどう活かすべきか考え、施策や活動などを通じて課題解決を図ってはどうか。